

兵庫県但東町

日本・モンゴル民族博物館年報

第1号 (平成8・9年度)

Annual Report of the JAPAN MONGOLIA Folk Museum
No. 1 (for the fiscal years of 1996-1997)

年報の発刊にあたって

日本・モンゴル民族博物館は、地域の文化を創造するための施設を目指し、平成8年11月3日に開館しました。開館以来まだ1年5ヶ月ではありますが、すでに5万4千人以上の入館者をお迎えし、多くの皆様から御好評をいただいております。全国からもたくさんの視察・見学者を迎えております。このように、ひとまず順調なスタートで来ましたことは、皆様の御支援、御協力によるものと深く感謝しております。

この間、私どもは企画展の開催をはじめ、各種普及行事の開催、博物館協力会の発足、モンゴルとの国際交流等に努力を重ねてきました。しかし、どちらかという、この1年半は博物館の諸活動をスタートさせ、定着させるための努力の期間であったように思われます。

当館は、1. 町民に開かれた文化施設、2. 町の文化創造の空間作り、3. 特色のある博物館活動、4. 小さな町の大きな国際性を目標にかかげておりますが、これらの基本理念を具現するためにも、質的なレベルアップを図っていくことは申すまでもありません。

さて、平成8年度は開館に伴うモンゴル関連の諸行事と、企画展として但東町内の県指定・町指定の文化財を一堂に会して展示しました。平成9年度は南シベリアのハカス共和国やブリヤート共和国との国際交流も含めて草の根からの国際交流を実践することができました。移動博物館も東京都・滋賀県・京都府の5会場で開催し、多数のご参加をいただき、大きな成果をあげることができました。

これら、両年度実施しました事業の概要をまとめて、この度、平成8年・9年度の博物館活動の記録を『博物館年報第1号』として発刊することになりました。今後も、当館の足跡を詳しく記録にとどめ、発展の糧とするために継続的に発行していきたいと考えております。

博物館としての活動はまだその緒についたばかりで、今後取り組むべき課題や解決すべき問題は山積しておりますが、地域に根ざした国際交流の博物館としてより多彩な活動を展開していく所存でありますので、今後とも皆様のなご一層の御指導と御援助をいただきますようお願い申し上げます。

平成10年4月1日

日本・モンゴル民族博物館長

福田 芳 郎



目 次

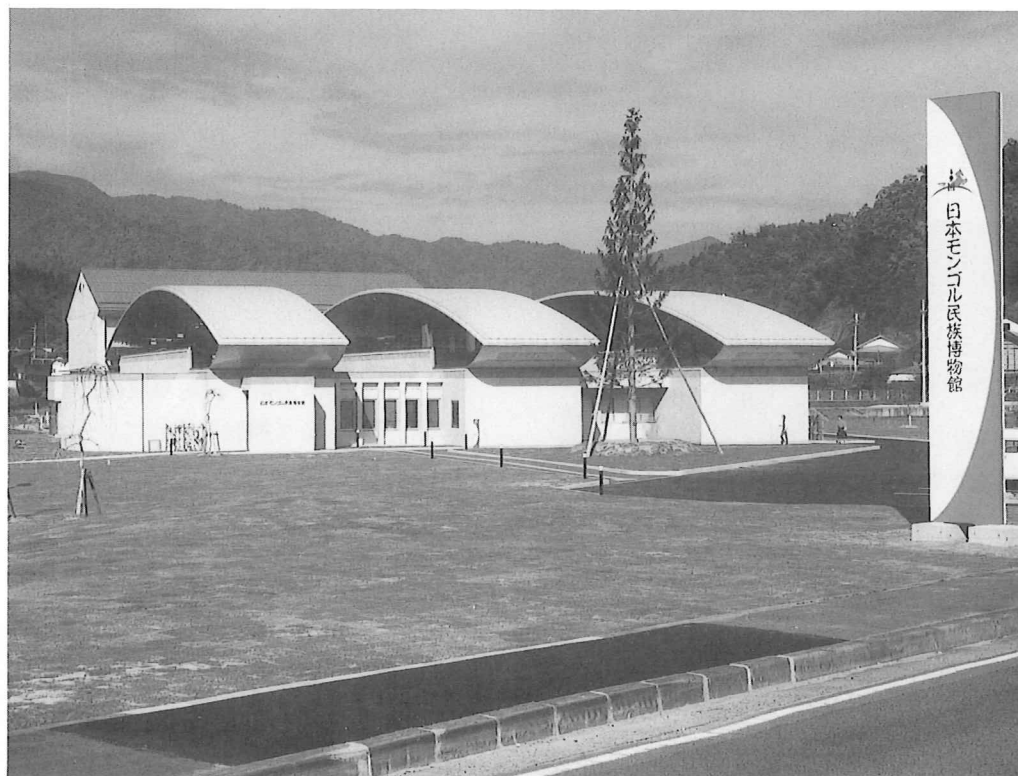
I. 開設準備	4
1. 建設経緯	
2. 博物館建設対策室	
3. 議会においての審議	
II. 開館事業	5
1. 博物館竣工式・祝賀会	
2. モンゴル出身大相撲力士激励会	
3. 第1回全国モンゴルサミット・in・たんとう	
4. 展示披露会	
5. 全国モンゴル交流の集い	
III. 展覧事業	9
1. 常設展	
2. 企画展	
3. 特別陳列	
IV. 調査研究事業	16
1. 水石朽ち木仏像群の調査	
2. 奥矢根近世墓遺跡発掘調査	
3. 一宮神社ケヤキ群生林の試掘調査	
4. 町民俗資料館保管の資料調査（考古資料）	
V. 資料収集保存事業	17
1. 寄 贈	
2. 寄 託	
3. 購入資料	
4. 資料の貸出	
5. 資料の燻蒸	
6. 文化財標柱設置	
VI. 普及教育事業	19
1. 普及行事	
2. 講師派遣	
3. 広報活動、報道機関への出演・掲載等	
4. 出版活動	

Ⅶ. 国際交流事業 25

1. モンゴルとの国際交流
2. モンゴル森林火災へのチャリティーコンサート
3. ハカス共和国音楽コンサート
4. モンゴル芸術家支援
5. 駐日モンゴル大使の訪問
6. 外国からの来館者

Ⅷ. 管理運営 28

1. 組織・職員
2. 予算の概要
3. 博物館協力会
4. 入館者利用状況
5. 日誌抄
6. 来館者の声より（抜粋）
7. 施設概要
8. 利用案内
9. 交通案内



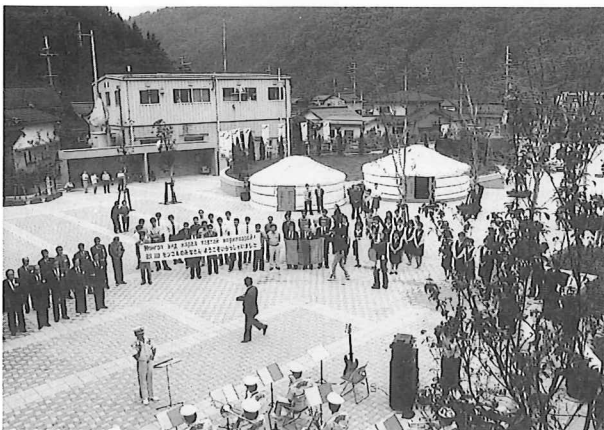
(博物館全景)

I. 開設準備

1. 建設経緯

但東町は、十数年にわたってモンゴル国と国際交流を深めてきた。平成6年に但馬1市18町を会場にした「但馬・理想の都の祭典」が開催される中、但東町では10月4日から11日までモンゴルから41名を招聘し、「森と砂漠を結ぶ国際シンポジウム」事業を実施した。シンポジウムのイベントとして元モンゴル国日本大使館員金津匡伸氏（当時は青森県八戸市在住）がモンゴル在勤中に収集した民族資料500点を「モンゴル民具・民芸品展」として公開し、好評を得たところであった。その後、但東町の要請により家族とも但東町に移住される中で、モンゴル民族資料5000点、東北地方の考古資料5000点の約1万点にわたる資料を但東町に寄贈いただいた。

平成8年は但東町町制施行40周年にあたり、記念事業としてこれまで地道に続けてきたモンゴルとの交流の核施設として博物館の建設を決定した。平成7年4月には博物館建設対策室が庁内に設置され、最大の目標は町制施行40周年を迎える但東町の記念催しに全力を挙げて開館することであった。地域住民の文化創造の拠点として機能できるよう、または新しいさまざまな交流がいっそう進展するような施設作りを目指して協議を重ねてきた。そして博物館は地域住民の「知的憩いの場」でありたいと願い、平成8年11月3日（日）文化の日に開館した。



(森と砂漠を結ぶ国際シンポジウム歓迎式典)

【経緯概要】

- 平成6年10月 「森と砂漠を結ぶ国際シンポジウム&音楽祭 in 但東～モンゴル」においてモンゴル民具民芸品展を開催
- 12月 モンゴル民族資料を金津匡伸氏より寄贈
- 平成7年4月 日本・モンゴル民族博物館建設対策室を

設置

- 7月 建設位置を中山地内に決定
- 11月 建築工事入札、契約議決
- 12月 起工式
- 平成8年5月 展示工事着手
- 8月 建築工事完成
- 10月 展示工事完成
- 11月 竣工式、一般公開

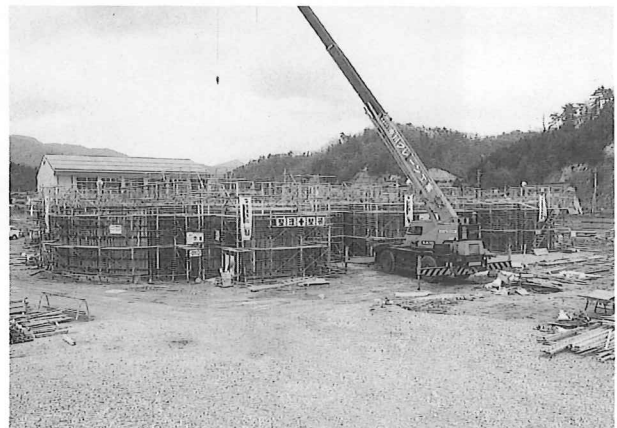


(モンゴル民具・民芸品展 役場大会議室)

2. 博物館建設対策室

博物館構想が発表された平成7年4月1日から平成8年11月3日の開館までが、日本・モンゴル民族博物館の開設準備期間に当たる。博物館建設事業は町をあげての一大プロジェクトだったことから、博物館を管理運営していく教育委員会と協議しながら、町長部局が所管して進められた。

平成7年4月に助役を室長とした博物館建設対策室が設置され、基本方針、用地の取得、建築設計、展示計画、運営計画について検討を重ねていった。その後の人事異



(博物館建設状況)

動に伴い、対策委員に若干の変更はあったが大筋での博物館計画に変更はなかった。

(1) 第1期対策室(平成7年4月1日～7月30日)

室長 助 役 大石清喜(総括)
総務課長 平石義信(総括)
生涯学習課長 坂岡早苗(管理運営)
総務課課長補佐 松本和洋(財政)
建設水道課係長 大谷 均(用地)
総務課係長 山下文生(建設一般)
生涯学習課係長 金津匡伸
(基本方針、建築・展示設計)
資料調査、管理運営、広報

(2) 第2期対策室(平成7年8月1日～平成9年3月31日)

室長 助 役 渋谷善正(総括)
建設課長 山本弘之(建築総括)
生涯学習課長 小西昌儀(管理運営)
総務課課長補佐 松本和洋(財政)
建設課係長 宮嶋裕之(用地)
建設課係長 山下文生(建設一般)
生涯学習課係長 金津匡伸
(基本方針、建築・展示設計)
資料調査、管理運営、広報

3. 議会における審議

平成7年6月の第274回定例会において、モンゴル民族博物館建設について審議されたが、会期中での日程が不足し7月7日まで延長、慎重審議が行われた。審議の様子を平成7年7月25日『たんとう議会だよりNo.103』

より抜粋した。

建設場所などをめぐって審議が難航し、会期を延長して継続審議していた「日本・モンゴル民族博物館」建設に関する二つの議案が、7月7日の本会議で審議された。その結果、いずれも記名投票による採決が行われ、予算等計画変更についての議案は賛成11、反対3。用地の取得に関する議案は賛成7、反対6という僅少差ではあったが、原案どおり可決された。

当日の主な討議内容は次のとおりであった。

【反対意見】

- ◎下排水という大事業を目前に6億という膨大な予算計上は無謀、同じやるならもっと生活に密着した施設を。
- ◎但東町とモンゴルには歴史的な経緯が乏しい。なのに今なぜモンゴルか、なぜ6億か、なぜ博物館なのか。現状では町民の合意は得られない。
- ◎現在の予定地では広大なモンゴルのイメージにはほど遠い。場所の選定についても住民合意がなければならぬ。

【賛成意見】

- ◎国、県の施設や教育、文化的施設に乏しい本町にとっては格好の施設である。日本一ともいわれる貴重な資料を生かす努力を惜しんではならない。
- ◎自主財源に乏しい本町にとっては制度事業に頼らざるを得ない。すでに助成が予定されているこの機会を逃すべきではない。
- ◎場所的にも、たんたんトンネルが開通した国道482号と県道宮津線が交差する最適地である。

II. 開館事業

1. 博物館竣工式・祝賀会

日本・モンゴル民族博物館の開館を祝う記念式典が、貝原俊民兵庫県知事、谷洋一衆議院議員、日村豊彦兵庫県会議員、ジグジット駐日モンゴル大使館臨時代理大使を招いて平成8年11月2日(土)に盛大に行われた。式典(あいさつ、祝辞、テープカットなど)のあと、招待者による施設の内覧会が行われた。

祝賀会は会場を「ふれあいセンターやまびこ」に移し、建設にあたって協力いただいたり、今後の運営に支援をいただかなければならない関係者を招待した。奥田町長より、資料寄贈者の金津匡伸氏、建築設計事務所の井上良一所長、建設関係者の川嶋建設川島実社長、井田工務店



(博物館竣工式テープカット)

野竿英明専務、株式会社マルテン永井道明社長、展示関係者の株式会社さんよう浦杉君江社長に対し感謝状を授与した。

(1) モンゴル国大統領メッセージ（原文のまま）

この度、但東町に日本・モンゴル民族博物館が開館されたことに対し、心からお喜び申し上げます。

但東町はモンゴル国と長年にわたり積極的に交流を進めており、今春モンゴル国内で発生した森林・草原火災の被害者に対して但東町の皆様が人道的な援助を提供してくれたことに対し、『困った時に友の性格が分かる』という諺がモンゴルにはありますが、我が国民はこの諺の意味を改めて実感し、喜んで頂戴しました。

今回、日本・モンゴル民族博物館が開館されたことは、日本・モンゴル両国の相互理解を拡大し、親善関係を更に深め、日本の皆様にモンゴル国についてさらなる理解を深めて頂く機会として今後大きな貢献をなすものと確信しております。

日本・モンゴル民族博物館の今後の一層の発展を祈念するとともに、但東町の皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

モンゴル国大統領 P. オチルバト（自署）
ウランバートル市 1996年9月

(2) 駐日モンゴル大使館

ジグジット臨時代理大使のあいさつ（原文のまま）

貝原兵庫県知事殿並びに奥田但東町長殿、ここにご列席の皆様、本日は誠にありがとうございます。

この度は、日本・モンゴル民族博物館の竣工式にあたり、私どもまでお招き下さいましたことに心から厚くお礼申し上げます。

1972年にモンゴルと日本との間に外交関係が樹立してからもう24年が経過しております。この間は両国関係が着実に発展してまいりましたが、ここ数年間は特に活発に拡大してまいりました。

今日の両国関係は政府レベルでの政治関係及び経済協力のみならず、一般の国民間での文化交流が盛んに行われるようになりました。その一つの例は本日開館した日本・モンゴル民族博物館であります。

1983年に発表された「但東シルクロード計画」によって我が国と但東町との親善交流の玉が生まれました。その玉をたくましく育て上げるために大変なご努力をされました但東町民の方々には心から感謝を申し上げます。地理的、気候的にはかなり異なる環境の下で、生きていながら心で通じ合える両国国民の相互理解がこの民族博物館を通じて、より一層深まることをお祈り申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

1996年11月2日

2. モンゴル出身大相撲力士激励会



（モンゴル出身の力士を囲んで）

大相撲で活躍されている大島部屋のモンゴル出身力士の旭鷲山、旭天鵬、旭天山を囲み、今後の活躍に期待して町主催の激励会を開催した。会場には旭鷲山の師でもあるモンゴル相撲横綱のバヤンムンフ氏も同席して花を添えた。

3. 第1回全国モンゴルサミット・in・たんとう開催

但東町民センターを会場に全国から6団体のパネリストを招待し、「モンゴルサミット・in・たんとう」を開催した。情報交換や地域交流に向けてモンゴル連絡協議会発足を目指すことなどを盛り込んだ5項目のサミット宣言を採択した。



（モンゴルサミットのパネリスト）

【開催趣旨】モンゴルを通じた個性ある街づくり、地域おこしを行っている全国の自治体や地域の団体がネットワークをつくり、情報交換や協力体制を組むことにより、互いに発展することを目的とする。

【開催期日】平成8年11月3日（日）

【開催場所】第1会場 但東町町民センター
第2会場 日本・モンゴル民族博物館
第3会場 但東町立資母体育館

【主催】但東町・但東町教育委員会

【共催】但東町国際交流協会

【後援】兵庫県

(1) 基調講演

講師 前駐モンゴル特命全権大使 蓮見 義博 氏

『変貌するモンゴルと日・「モ」友好関係』

(講演要旨)

1990年以降、モンゴルは民主憲法を施行し、物価、学習等の自由化、民営化をはじめ経済の自由化を短期間に実施した。この間、危機的局面もあったが、94年以降経済成長率はプラスに転じる民主化、市場経済化への移行期にある国の中でもモンゴルは“優等生”と云われる。これも西側諸国の積極的な援助、中でもすでに5回にわたり対「モ」支援国国際会合を東京で主催した日本政府の役割が際立っている。そこには日本人がモンゴルに対してもつロマンやノスタルジアないしは親近感、格別な思い入れも背景としてあることは否めない。この結果、日・「モ」間の友好交流は官民をあげて活発になり、モンゴルにおいて日本のプレゼンスは急激に拡大すると同時に日本でのモンゴルブームは旭鷲山の大相撲での活躍振りとも相俟って一層の高まりをみせている。まさにかかる時期にモンゴルに大使として在勤(93.5~96.8)することができたことを無上の喜びと感じている。

かかる日・「モ」関係の発展は、東西冷戦の終結に伴って、モンゴルの対外姿勢がいち早く東アジアに向けて180度転換し、とりわけ対中国関係が改善されて、北京-ウランバートル間に航空路が開設されたことも大きな要因である。それまでの35時間の国際列車に較べて日本との距離は大幅に短縮され、更に今年5月からは関西空港と直行便が開設されて、両国間の交流は一層活発となり緊密化している。もはやモンゴルは“地の果て、でもなければ、ウランバートルは“陸の孤島”でもない。しかしながらモンゴルは中国、ロシア両大国に挟まれた内陸国としての地理学的特異な条件の下で、僅かに230万人の人口により日本の4倍の領土面積を維持せねばならず、自国の領土保全、安全保障確保のための外交的努力は引き続き厳しいものがある。

軍隊を含めた旧ソ連の撤収と同時にモンゴルのソ連離れは一挙にすすみ、一般にロシア語に代わって急速に英語が普及している。モンゴル人の新たな時代への適応の早さを印象付けられたが、たとえばチベット仏教の国民生活への定着も早く、こ2,3年の間に社会全体が一変した感を免れない。ところで、西側の一部にはこれを汎モンゴリズム、あるいはモンゴル帝国の再燃などとはやしたてる向きもあるが、中国・内モンゴル自治区におけるモンゴル族の現況、また厳しい現実を直視し政策を実施するモンゴルの指導者の考え方からすれば、目下かかる



(蓮見前駐モンゴル特命全権大使)

目標など夢想だにしないところであろう。因に、93年9月にウランバートルにおいて世界モンゴル人大会がモンゴル民族の交流を図る目的で開催されたが、結局は盛り上がり欠けていた。

91年以降日本のモンゴルに対する無償援助は各分野に及んで現地の国民生活の向上に貢献している。例えば、老朽化した火力発電所をリハビリし、石炭供給源の炭鉱生産効率化を図る措置をとった結果、厳冬の停電、暖房状況も大幅に改善された。またインテルサット衛星通信地上局が設置され常時国際通信が可能となったり、日本製バス60台(年度末に更に40台)を贈与した結果、ウランバートル市民にとっては厳冬の中で長い間バス停で待つこともなくなった。昨95年度を例にとっても、日本政府の対「モ」援助額は有償、無償を併せて110億円に達しており、同年のモンゴルの財政規模の3分の2近くに相当している。モンゴルにおいて日本は文字通りトップ・ドナー国としてモンゴル経済の発展にとっても指導的立場にある。

去る6月30日の総選挙では大方の予想に反して野党の民主連合が大会議で76議席中50議席を獲得して圧勝し、75年間続いた人民革命党政権に代わってエンフサイハン氏を首相とする民主護憲派による新政権が誕生した。新内閣は若く、経験の少ない閣僚で構成されているが、目下はこれまで前政権が先送りしてきた経済問題を含めて、多くの困難な懸案解決に取り組んでおり、その手腕が注目される。今年の銅の国際価格の値下がりには財政収入を圧迫しており、また公共料金の値上げも避けられず、特に今年冬期のエネルギー供給にも問題が出ているといわれる。加えてIMFの指示で実行した結果、懸念された民営化、高金利政策、自由貿易、行政機構の縮小に伴う大きな問題が顕在化し始めている。こうした状況の下で、日本政府は民間の支援と共に今後とも各分野での対モンゴル援助をつづける所存であり、モンゴルが今後これら困難な問題を順次克服していき、自主による新しい国造りを早期に実現できるように祈念して記念すべき本日の講演を終わらせることに致したい。

(2) パネル・ディスカッション

但東町民ホールを会場に全国から約200名が参加して行われた。モンゴルとの国際交流をテーマに、これまでの国際交流の経緯と今後の交流について討議された。

【パネリスト（7団体）】

- ①成田佐太郎氏（青森県車力村村長）
農業研修生の受け入れやモンゴル国内での食料増産を目的とした農業支援を推進している。
 - ②相田治昭氏（東京都板橋区国際交流課）
モンゴル文部省と交流協定を結び、モンゴル文字の教科書を印刷して寄贈。
 - ③広田幸雄氏（徳島県那賀川町教育委員会次長）
野球を通じたスポーツ交流を積極的に推進している。
 - ④岡崎秀紀氏（島根モンゴル友好協会事務局長）
島根モンゴル友好の翼と称して飛行機をチャーターし、県民によるモンゴル理解に寄与している。
 - ⑤足立一夫氏（兵庫県氷上町国際交流協会会長）
町内の小学校にウランバートル23中学校から継続的に児童を招聘し、日本理解に寄与している。
 - ⑥島田喜義氏（兵庫県わかやま国際文化交流協会会長）
中国内モンゴル自治区から教員を招聘し日本語理解を推進し、将来は日本語学校を現地に建設する予定である。
 - ⑦奥田清喜氏（兵庫県但東町町長）
国際文化交流を基本にモンゴル理解を推進するためにモンゴル博物館を建設した。
 - ⑧コーディネーター：もり・けん氏（放送作家）
- ## (3) サミット宣言



(サミット宣言をする奥田町長)

本日ここに集いし団体および個人は、モンゴルという共通項でサミットに参加した。私たちは、人と人が交わればひらかれた人間形成に大きく寄与するという事をお互いが確認した。このサミットを機により広範な交流の輪が広がることを願うものである。そしてこのサミットが、私たちとモンゴルにとどまらず、モンゴルから世界へとひろがり、お互いが地球の一員であるという認識をもった交流の基礎となれば幸いである。私たちは次の

ことを確認し、サミット宣言する。

- 一. これからもモンゴルとの交流を続け、友好関係を深める。
- 一. 官民、団体個人の別なく交流ができる人の輪作りをめざす。
- 一. 交流のための情報交換や相互の協力活動等を推進していく。
- 一. サミット参加団体及び個人の輪を広げ、より広範なネットワーク作りをめざす。
- 一. 上記のために、モンゴルサミット連絡協議会の発足をめざす。

1996年11月3日

モンゴルサミット参加者を代表して

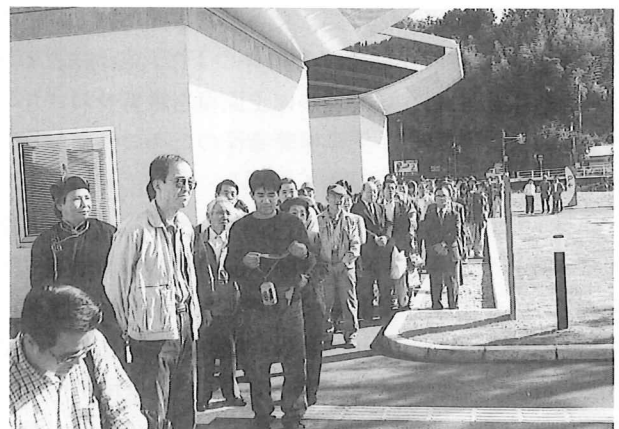
兵庫県出石郡但東町 町長 奥田清喜

4. 展示披露会

一般公開は展示披露として10:00から17:00の間に自由に見学していただいた。博物館応接室では大島部屋の旭鷲山手形会を開催し約300名が並んだ。博物館前の芝生広場ではモンゴル相撲横綱バヤンムンフ氏指導によるモンゴル相撲チビッコ力士によるトーナメントを実施し、優勝者にはバヤンムンフ氏からトロフィーを授与された。バヤンムンフ氏は1972年ミュンヘンオリンピックのレスリングの銀メダリストであり、モンゴル相撲大会で10回優勝経験のあるモンゴル最強の横綱である。

多目的室では内蒙古師範大学のアマルバト先生の切り絵展も同時開催した。この日だけ無料開放された博物館には約3千人が入場し、国際交流を楽しむ家族で一日中にごわった。

町民センターにおいては全国シャガイ（羊の骨を使ったモンゴルのゲーム）大会とトゥルブラム氏のモンゴル切り絵展を同時に開催した。



(開館前に並ぶ見学者)

5. 全国モンゴル交流の集い

博物館に隣接した資母体育館を会場に、郷土芸能「如

布神楽」、馬頭琴奏者のシンバヤル氏による演奏、日本の歌、ハーモニカ演奏、オカリナ演奏等が披露された。壁面パネルでは各団体の活動報告を紹介した。



(見学風景)

Ⅲ. 展覧事業

1. 常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、A棟のたんとうの森、B棟の東アジアの歴史・チベット仏教、C棟のモンゴル草原の暮らしと文化の展示の3つから構成されている。

■たんとうの森

但東町をイメージしたコーナーでは、但東町の伝統や歴史を紹介。町の9割を占める森林を象徴するように、人工樹木5本を設置している。図書コーナーでは関連書籍、資料等が自由に閲覧できる。また、昔懐かしい囲炉裏端（電気炉）のある和室では休憩や交流の場所として利用できる。

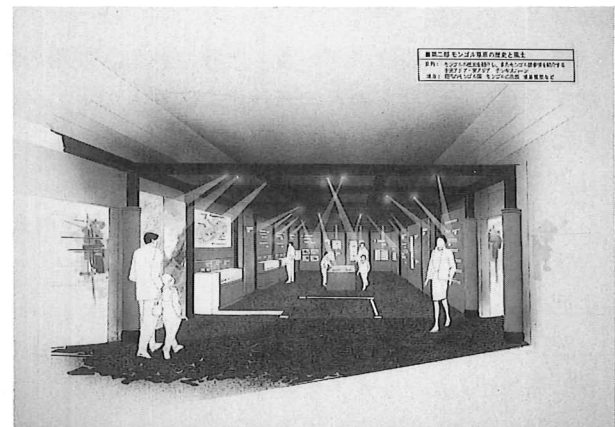
【主要展示資料】

水石朽ち木仏像群（11体）

平安時代	但東町水石	水石区蔵
高札		
江戸時代	但東町坂野	岡田徳太郎氏蔵
庚申塔（2基）		
江戸時代	但東町畑	東覚寺蔵
道標（2基）		
江戸時代	但東町大河内	楽音寺蔵

■東アジアの歴史

大陸の文化は、民族どうしの接触が繰り返され、それがお互いの文化に影響し融合したことで、独自の文化が生まれた。おもに東アジアで発掘されたものを中心にモンゴル大帝の樹立、元の時代、近代モンゴルまでの資料などを紹介。



(東アジアの歴史 展示パース)

【主要展示資料】

恐竜の卵化石

中生代白亜期後期（9700万年～6500万年前）

骨角器（植刃、針）

新石器時代（6000年前）

青銅器（刀子、帯金具）

青銅器時代（前9世紀～3世紀）

女子俑

漢代（1世紀～3世紀）

彩絵釉陶風帽女子騎馬俑

唐代（7世紀）

緑釉水注

唐代（618年～907年）

馬具の飾り金具

遼代（11世紀）

遼代墳墓模型

■モンゴル草原の暮らしと文化

牧民の移動式住居である「ゲル」の展示をはじめ、衣・食・住を中心に生活の全般にわたる資料を展示。自然とともに生き、遊牧生活を営むモンゴルの人々の原寸大の暮らしを紹介。

①モンゴルの食文化

モンゴルでは基本的に「白い食べ物」「赤い食べ物」が周期的に訪れる。子家畜が生まれ母家畜が乳を出すようになる春から秋までは乳がたくさん取れる時期にあたり、乳製品が主食となる。これが「白い食べ物」である。夏は肉の保存がむずかしいため、特別なとき以外は家畜を殺さない。秋になり乳の量が少なくなると、夏に太った家畜たちの肉が主食になる。10月には気温は氷点下になり、肉は外に放置するだけで保存できるからである。これが「赤い食べ物」である。乳製品、肉も乾燥保存し、一年を通じて食べる。

モンゴル人が「食事」と呼んでいるのは夕食の一回だけである。朝と昼は「お茶を飲む」と言って、文字通りお茶と乳製品をつまむ程度である。「食事」は肉のスープが主体で、そこにうどんやワンタンなどを入れたものを食べる。

【主要展示資料】

銀杯、銀製水注、鉄製五徳と鍋、乳製品加工具、木製臼、木製容器

②モンゴルの衣装

モンゴルの衣装は「デール」と呼ばれる。夏用の裏地を張っただけのものと、春秋用の綿入りのもの、冬用に毛皮を裏地に張った3つに大きく分けられる。

【主要展示資料】

デールを着たマネキン4体、騎乗用フェルト製雨具、夏用帽子、女性用革靴

③生活の中の道具

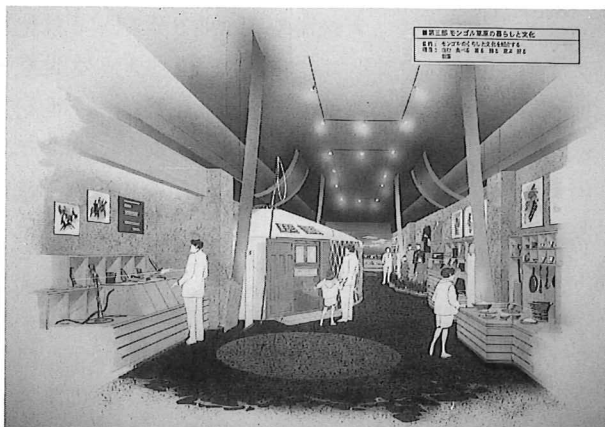
牧民は日常生活の多くの部分を自給自足でまかなう。そのためにフェルトや皮革の加工、羊毛を紡ぐ技術などが発達し伝承されてきた。

【主要展示資料】

手斧、鉞、弓錐、ふいご、革なめし具、熨斗、鏡、ホソール（馬の汗払い）

④移動式住居ゲル

牧民たちは、一年に大きな移動は春夏秋冬の4回、



(モンゴル草原の暮らしと文化 展示パス)

ほぼ決まった場所を移動する。さらに牧草地の状況によっては短い移動を繰り返す必要もでてくる。したがってゲルは移動に適した構造を有しており、大人数人が1時間で建てられる簡単なものである。展示では夏の終わりから秋にかけてのゲルでの生活を再現している。

【主要展示資料】

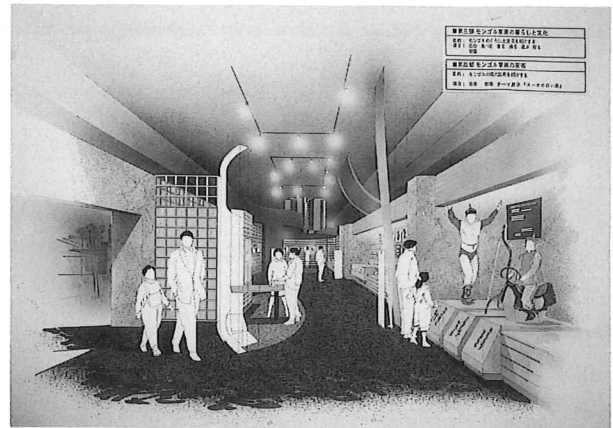
ゲルおよび調度品一式、馬乳酒用革袋、モンゴル鞍

⑤モンゴルの狩猟

モンゴル人の生活は牧畜だけではない。モンゴルの自然はとても豊かな資源を与えてくれる。森林地域では大規模な牧畜が困難なので年間を通じて十分な食肉を得ることが難しい。したがって狩猟によってそれを補う必要がでてくる。

【主要展示資料】

狩猟用銃、銃の付属用具、罟、タルバガンの毛皮、ガゼールの角



(モンゴル草原の暮らしと文化 展示パス)

⑥ナーダム

ナーダムは本来、遊びというモンゴル語であるが、諸霊や神々の祭儀や戦勝の記念、貴人の婚礼や世継ぎの誕生に催された。ナーダムではさまざまな競技が行われたが、「男の三種のナーダム」と称される「相撲」「弓技」「競馬」が最も重要かつ人気のある競技である。毎年7月の革命記念日に、首都ウランバートル市で盛大なナーダムが開かれるのをはじめ、全国各地でも行われる。

【主要展示資料】

モンゴル相撲の衣装をつけたマネキン、競馬の衣装をつけたマネキン、競技用弓矢

⑦モンゴルの装飾品

古くからモンゴル地域では金銀細工や装飾品を作るダルハンと呼ばれる職人がいる。9つの貴石（金、銀、銅、真鍮、珊瑚、真珠、トルコ石、瑪瑙、琥珀）をふんだんに使い、凝った細工の物が非常に多い。女性は、かつて腕輪、指輪、ピアスを常に身につけていた。髪

飾りは貴族階級が多く使用していたが、各地域ごとの特色が強い。モンゴルの男性は、刀と火打ち鎌、お椀、嗅ぎ煙草、キセルおよびキセル用具を常に携帯していた。特別に刺繍した袋にそれぞれ入れて帯にぶら下げる。日常生活用品であるが凝った意匠も多く、牧民のセンスをうかがい知ることができる資料を紹介。

【主要展示資料】

ブリヤート族の女性頭飾り、ハルハ族の女性頭飾り、内モンゴルの女性頭飾り、男性用ベルト、モンゴル刀、キセル、嗅ぎたばこ入れ、銀杯、勲章

⑧草原の遊び

代表的なおもちゃにジャガイがある。羊のくるぶしの骨のことで、これをたくさん集めている色々な遊びをする。おはじき、双六、お手玉などができるが、日本のものと大きく違うのは、ジャガイには4面ある点である。この4面にそれぞれ馬、ラクダ、山羊、羊と名前が付けられており、より複雑な遊びができるようになっている。ここでは遊びの体験ということで、引き出しの中にジャガイを入れて、草原の遊びに触れることもできる。

【主要展示資料】

シャタル（将棋）、骨製知恵の輪、ジャガイハルハッフ（射的）、ジャガイ、現代工芸品

⑨草原の音楽

モンゴルの楽器といえば馬頭琴（モリン・ホール）が最も有名である。馬のしっぽの毛で二本の弦と弓を張り、馬の走る様子のほか、馬のいななきまで表現することができる。改良と奏法の工夫が重ねられた結果、現在では非常に広い音域を出すことができ、クラシックなどの演奏も可能になった。ほかにシャンズ（蛇味線）やホーチル（二胡）、ヤットガ（琴）、リンベ（横笛）などもあり、モンゴルの民族楽器だけで構成されたオーケストラもある。

モンゴル民謡には「オルティン・ドー（長い唄）」と「ボギン・ドー（短い唄）」があり、オルティン・

ドーには日本の馬子唄や追分唄などと似たものがある。また、特徴的な発声方法に「ホーミー」というのがある。これは一人が高低音を同時に発声する特殊な歌い方である。これらを紹介するCDを常時BGMとして流している。

【主要展示資料】

モリン・ホール（馬頭琴）、リンベ（横笛）

⑩草原の芸術

モンゴルを代表する著名画家による絵画を中心に、彫刻などを紹介。

【主要展示資料】

木彫：マニー作「チンギス・ハーンの宮殿を引いた牛車」

絵画：ウラタナサン作「賢妃マンドハイ」「モンゴルの一日」「馬頭琴をひく老人」

■モンゴル草原のいのり

モンゴル民族の宗教は、シャーマニズムなどと呼ばれる自然宗教と外来宗教である仏教に大別でき、その仏教美術は主にチベットの影響を多分に受けている。展示では、モンゴル仏教の仏像、タンカ、仏具、経典、宗教楽器などの資料や、モンゴルのダ・ヴィンチと呼ばれるザナバザルの影響を受けた仏教美術も紹介。

【主要展示資料】

人骨の笛、手鼓、法螺、ドクロ杯、銀製カバーラ、香炉、仏塔、護符、仏画、経典

仏像（十一面観音、文殊菩薩、釈迦如来、無量寿、緑ターラー菩薩）

(2) 常設展の展示監修

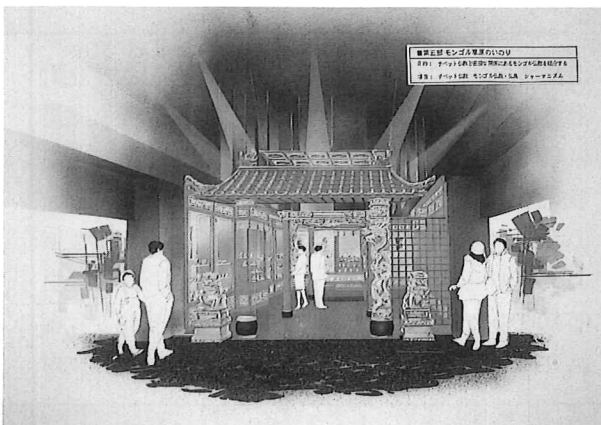
モンゴルの常設については、前モンゴル国立歴史民族博物館長のルハグワスレン氏を監修者として招聘した。モンゴル草原のいのり（チベット仏教）については、種智院大学北村太道教授および研究生に監修いただいた。

(3) 常設展の手直し

館内の順路がわかりにくいという指摘を踏まえて、スタンド1カ所と案内板表示を追加した。また、各展示コーナーのサインがガラスであったため、破損して見学者に危害が及ぶことを回避するために一部を木製サインに替えた。企画展示室入口にタペストリーを設置し、正面玄関から直接見えにくく配慮し、順路に従って見学できるように努めた。常設展の個別キャプションを安価なプラスチック製品から記載事項を増やすためにやや大きめの木製キャプションに変更した。また、国際交流を推進している施設整備の一環として記載事項の中に英訳を全てのキャプションに追加した。

(4) 職員による解説

当館の職員は現在6名で、来観者の要望に応じて解説補助の仕事を随時対応している。



(モンゴル草原のいのり 展示パース)

数名から十数名程度の団体については各展示室を通しでの解説を行っている。通路が狭いこともあり20数名以上の団体には一般的なガイダンスや各コーナーでの個別の質問への対応が主体となっている。

2. 企画展

平成8年度は、博物館の開館に全力を注ぎ、それを見ていただくのが開館という観点から、平成8年度は但東町に所在している兵庫県指定および但東町指定の文化財を広く内外に紹介するため、5カ月のロングランに渡って『但東の文化財』を開催した。平成9年度には『縄文人の暮らしと文化』『よみがえる出石郡衙～袴狭遺跡～』『第二回但東の文化財』の企画展を行った。



(職員による見学者への解説)

■第1回企画展『但東の文化財』

平成8年11月3日～平成9年3月25日



(増長天像・平安時代)



(薬師如来座像・平安時代)



(多門天像・平安時代)

【出品目録】

〈彫刻〉	薬師如来座像	平安時代後期	但東町栗尾	松禅寺	兵庫県指定文化財
	増長天像	平安時代後期	但東町栗尾	松禅寺	但東町指定文化財
	多門天像	平安時代後期	但東町栗尾	松禅寺	但東町指定文化財
	大威徳明王座像	平安時代後期	但東町栗尾	松禅寺	
	阿弥陀如来座像	室町時代	但東町中山	蔵雲寺	但東町指定文化財
	阿弥陀如来座像	室町時代	但東町大河内	楽音寺	但東町指定文化財
	聖観音菩薩立像	室町時代	但東町中山	蔵雲寺	但東町指定文化財
	宝冠釈迦如来座像	室町時代	但東町大河内	楽音寺	但東町指定文化財

〈 絵 画 〉	十六羅漢図 (二幅)	室町時代	但東町中山	蔵雲寺	兵庫県指定文化財
	寒山拾得図 (二幅)	室町時代	但東町中山	金蔵寺	但東町指定文化財
	達磨図	室町時代	但東町中山	蔵雲寺	但東町指定文化財
	達磨図	室町時代	但東町中山	蔵雲寺	但東町指定文化財
	布袋像賛	江戸時代	但東町赤花	橋本重幸氏	但東町指定文化財
〈 文 書 〉	山名常熙書下	室町時代	但東町薬王寺	大月武司氏	但東町指定文化財
	「但馬大田文」写	江戸時代	但東町中山	堀三右衛門氏	但東町指定文化財
	天正八年「赤花村水帳」写	江戸時代		博物館蔵	但東町指定文化財
	廻国道中方案記	江戸時代	但東町虫生	山本貞子氏	
〈考古資料〉	尖頭器	後期旧石器時代	但東町木村	太田尚氏	
	瓦経	平安時代	但東町中山	蔵雲寺	但東町指定文化財
	秋草双鳥文鏡	平安時代	但東町薬王寺	大生部兵主神社	
	蓬莱鏡	室町時代	但東町後	石坪武彦氏	
〈工 芸 品〉	古銅器 (16点)	鎌倉時代	但東町中山	金蔵寺	但東町指定文化財

■第2回企画展『縄文人の暮らしと文化』

平成9年3月27日～7月15日

『縄文人の暮らしと文化』をテーマに、縄文時代の人々の生活の様子をとりあげた。近年は青森県の三内丸山遺跡の発見等で縄文時代のイメージが大きく変わりつつあり、新しい研究成果を踏まえながら現代日本人のルーツともいえる縄文人の世界を紹介すべく企画した。縄文人の生活が現代に何を語りかけているかをくみ取ることにより、遠い縄文時代のことも現代を考える新たな視点になるものとする。展示資料は館蔵資料で構成した。

【展示テーマ】

1. 花開いた土器文化
2. 縄文人の食生活
3. 縄文人の祈り・装い
4. 縄文人の家と村



(第2回企画展)

■第3回企画展『よみがえる出石郡衙・袴狭遺跡』

平成9年7月17日～11月11日

但馬の豊かな歴史や伝統文化、美しく清らかな自然環境を再発見し、その素晴らしさを内外に紹介していこうと、但馬をテーマにした企画として出石町「袴狭遺跡」を取り上げてみた。袴狭遺跡は、これまでに大量の木製祭祀具が出土し、全国でも例のない律令時代の祭祀遺跡として著名である。近年の調査により、大規模な建物群が発見され出石郡の役所跡(郡衙)ではないかと有力視されている。

本展は、これまでの調査で判明した成果を中心として、袴狭遺跡と但馬の古代史に対する理解を深めて頂きたいと企画したものである。本展は出石町教育委員会のご指導により実現したものであり、厚く謝意を申し上げる。



(第3回企画展)

【展示テーマ】

1. 袴狭遺跡
但馬国内における袴狭遺跡の位置付けを試みた。
2. 文字の普及
木簡レプリカ、墨書土器
3. 勤務した役人たち
4. 平安時代の食器と献立

農民、地方役人、貴族別の食事をレプリカにて再現した。

5. 人々の暮らし
農具や田下駄、機織りの、履物、遊具、
6. 穢れと祓
大量に出土した人形、馬形、齋串

【出品目録】

〈金属製品〉	草花八稜鏡、壺鍔、バックル、銅製容器片、開元通宝、富寿通宝
〈土 器〉	墨書土器（「秦」「秦浄」「秦平」「出石」「資母」「出石領」） 須恵器杯・杯蓋・皿・壺・平瓶、土師器杯・碗・皿・広口壺、硯、小皿転用硯、灰釉皿・耳杯・壺・蓋、緑釉皿・碗・香炉蓋・線刻碗片
〈木 製 品〉	人形、馬形、齋串、刀形、鋸歯状木製品、琵琶腹板、琴、琴柱、机脚、火きり臼、算木、独楽、布巻き具、糸巻き梓木、糸巻き横木、木匙、木へら、木槌、下駄、田下駄、特殊田下駄、苗代コテ、舌長鍔、題せん軸、木簡（模型）、琴（模型）
〈石 製 品〉	腰帯装飾品、紡錘車、砥石
〈そ の 他〉	フイゴ羽口、土馬、漆付き碗

■第4回企画展『第二回但東の文化財』

平成9年11月13日～平成10年3月31日

2回目の但東の文化財をテーマにした企画であるが、

これまで知られていなかった個人所蔵の文化財に焦点をあててみた。

【出品目録】

〈 書 画 〉	掛け軸 機織りの図 頼山陽書 作・大前清 掛け軸 庚申像 頼山陽像 伊藤博文書	清代 江戸時代 江戸時代 江戸時代 明治時代	塩川良彦氏 渋谷孫兵衛氏 太田尚氏 渋谷孫兵衛氏 五十嵐正一氏
〈 文 書 〉	宿陣文書 側日記 寂室録 出石藩小出大和守書簡 冷泉家文書 わら谷地境争議裁許状 牧信盛等連署畠地売券 但州路出石郡太田庄瑞雲山金蔵禅寺縁起 田地売渡証文 涅槃像勤化帳 木村田畠地改帳	江戸時代 江戸時代 江戸時代 江戸時代 江戸時代 江戸時代 江戸時代 江戸時代 江戸時代 江戸時代	小山芳彦氏 堀三右衛門氏 金蔵寺 金蔵寺 蔵雲寺 太田尚氏 大生部兵主神社 金蔵寺 玉宗寺 阿弥陀庵 太田尚氏 永禄2年 明暦4年 享保18年 寛政6年 寛永16年

〈工芸品〉	懸仏（伝金蔵寺）	室町時代	加悦町 吉祥寺	加悦町指定文化財
	香炉		塩川良彦氏	
	手焙り	江戸時代	橋本重幸氏	出石藩主より拝領
	古出石焼		渋谷孫兵衛氏	
	陶磁器	江戸時代	渋谷孫兵衛氏	
	木製庚申像	江戸時代	金蔵寺	
	道中観音像	江戸時代	小山芳彦氏	豊岡藩京極家より拝領
〈その他〉	草履	江戸時代	橋本重幸氏	出石藩主より拝領
	懸魚（伝旧金蔵寺）		金蔵寺	
	版木	江戸時代	蔵雲寺	
	木製大小板		兼井通夫氏	

3. 特別陳列

たんとうの森では定期的に特別陳列としてミニ企画展を実施している。

【第1回】但東の考古資料

但東町民俗資料館所有の考古資料と町内の方から所蔵品を借用して展示した。後期旧石器時代の尖頭器から14世紀の丹波焼甕までを紹介した。

【第2回】但東の民俗資料

但東町民俗資料館所有の生活資料40点を紹介した。

【第3回】縄文土器

当館資料の縄文土器35点を早期から晩期までの土器編年を紹介。

【第4回】郷土玩具

青森県八戸市在住の杉本旭氏から今淵コレクションの郷土玩具を一括で寄贈をいただいた。北海道から沖縄までの郷土玩具109点を紹介。



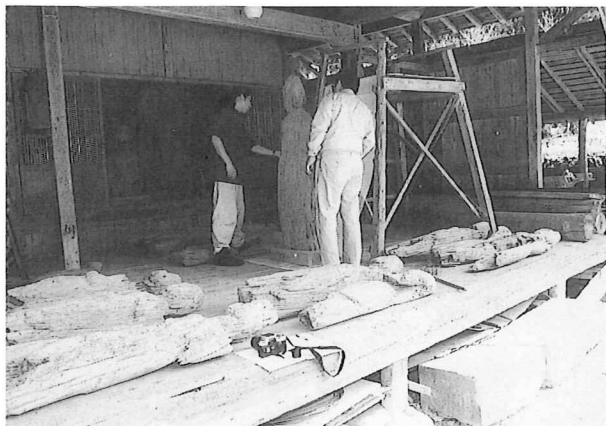
(第4回企画展)



(杉本旭氏寄贈の郷土玩具)

Ⅳ. 調査研究事業

調査研究は、博物館における諸活動の根底をなすものである。それは、質の高い調査研究に裏付けられて、最新の情報を盛り込んだ展示、質の高いコレクション、内容豊かな普及行事が可能となるからである。今回は厳密に調査研究を主目的としたものではなく、緊急調査の範疇に含まれるものではあるが、博物館事業の一環として紹介する。



(水石朽ち木仏像群の調査状況)

1. 水石朽ち木仏像群の調査

常設展に伴う調査として平成8年4月22日に実施した。水石区の公民館脇に設置された歌舞伎舞台の一部を改変して収蔵施設としていた。約100年前に発見されたものではあるが、保存状態は極めて良好であった。但し、これまでに本格的な調査は一度も実施されたことはなかったが、博物館建設に伴う資料調査の一環として全体の調査を実施した。想像以上に虫害による損壊が著しかった。水石区の区長や関係者との協議を重ねた結果、博物館に寄託して展示させていただくことになり、改めて27体全てを博物館に移して虫害処理を実施した。形のしっかりしている11体については「たんとうの森」で常設展示した。

調査の結果は27体の仏像名を特定することはできなかったが、衣の表現やいずれの特徴からも平安時代前期と想定することができる。どのような理由で土中に埋もれたのかは不明であるが、往時においては大きな伽藍を有した寺院の存在が水石区に想定することが可能である。

2. 奥矢根近世墓遺跡発掘調査

株式会社川嶋建設による土取工事に伴い発掘調査を平成10年3月2日より17日まで実施した。平成8年の分布調査により遺跡の存在を確認していた。発掘調査は初めての町単独事業だったために、県教育委員会文化財保護課と協議をしながら進めた。

遺跡は奥矢根のたんたんトンネル手前に位置し、近世の

集石墓3基と階段状の遺構1基が検出された。いずれも18世紀の肥前系の陶磁器が発見され、近世の奥矢根銀山との地理的、歴史的関係からいずれも銀山関係者にまつわる遺構と考えられる。付近は通称「奥矢根千軒」と呼ばれる地区にも近い。



(奥矢根近世墓遺跡発掘状況)

3. 一宮神社ケヤキ群生林試掘調査

町立高橋保育園の駐車場確保のために試掘調査を平成10年3月3日に実施した。一宮神社ケヤキ群生林は兵庫県指定文化財であるために、県教育委員会文化財保護課と協議をしながら進めた。ケヤキ群生林の根が予定地に検出されるか、数箇所に試掘溝を設置したが、いずれも検出することができなかった。当該地にはケヤキ群生林の根は存在しないものと思量され、今回の駐車場建設に伴うケヤキ群生林への影響はないものと考えられる。

4. 町民俗資料館保管の資料調査(考古資料)

資料館には平箱で約30箱分に及ぶ考古資料が整理未了のまま今日まで保管されてきた。博物館資料として活用を図るために平成8・9年度にかけて調査を実施した。資料の大半は昭和40年代から60年代にかけて偶然発見されたものである。後天神遺跡については縄文時代前期の発掘された数少ない資料として貴重である。奥藤古墳については昭和47年に発見された一括資料が残っており、当地方の古墳時代後期を知るうえで貴重である。復原できる資料については、資料の観察後に全て石膏による復原を実施した。

中世に関する考古資料として完形の丹波焼甕(14世紀)、古越前焼甕(13世紀)、畑森出土の経筒外容器(12世紀末)等が注目される。中国産の青磁や白磁の破片も比較的多く散見している。これらの考古資料を平成10年度の企画展において紹介する予定である。

V. 資料収集保存事業

資料の収集と保存は、博物館の最も基本的な機能である。当館は郷土やモンゴルの自然や歴史・文化に関する資料を収集するとともに、それぞれの分野でのテーマに応じ、比較資料として郷土やモンゴルに関する資料をも収集対象としている。資料の収集は、寄贈・寄託・購入・採集・交換など、さまざまな方法で行っている。

1. 寄贈

(1) 寄贈資料

平成8年10月	モンゴル絵画(油絵)	6点
	蓮見 義博氏 東京都	
11月	モンゴル切り絵	2点
	アマルバト氏 蒙古師範大学	
	モンゴルデール(民族衣装)	2点
	デンベレル氏 在モンゴル国日本大使館	
平成9年3月9日	手作り楽器	4点
	美蔦 昇氏 出石町	
4月	内モンゴルに関する資料	49点
	山之内房子氏 神奈川県	
9月18日	モンゴルの民芸品	30点
	上矢作町 岐阜県	
9月26日	石像(森の小人)	7点
	堀三右衛門氏 但東町中山	
10月11日	猪の剥製	1点
	清水 貞夫氏 但東町東里	
10月18日	ミニ屏風	1点
	渡辺 嘉人氏 但東町中山	
10月31日	夏ツバキ	5点
	前田 正規氏 但東町相田	
11月1日	毛皮袋入りシャガイ	1点
	三木 陽子氏 村岡町	
平成10年2月8日	手作り楽器	12点
	宮崎 敏彌氏 神戸市	
3月14日	手作り楽器	6点
	宮崎 敏彌氏 神戸市	
3月31日	外国のおもちゃ	2点
	池田 宣弘氏 神戸市	

(2) 図書寄贈者一覧(順不同・敬称省略)

【個人】安尾慎一、岡井主税、岡田豊、佐藤紀子、田中克彦、松本浩、森隆男、薛秋男、山下かなえ
 【兵庫県内】兵庫県社会教育・文化財課、兵庫県立こども館、津名町教育委員会、御津町教育委員会、上郡町教育委員会、氷上郡教育委員会、黒田庄

町教育委員会、赤穂市立歴史博物館、竹野町教育委員会、八鹿町教育委員会、豊岡市コウノトリの里公園推進室、加西市教育委員会、北淡町教育委員会、加美町教育委員会、龍野市歴史文化資料館、白水遺跡発掘調査団、兵庫県生活文化部環境局環境政策課、加古川流域滝野歴史民俗資料館、兵庫県人と自然の博物館、赤穂市教育委員会、加東郡教育委員会、吉川町教育委員会、日高町教育委員会、加古川市総合文化センター、にしわき経緯度地球科学館、出石町教育委員会、姫路市立美術館、新宮町教育委員会、播磨町郷土資料館、兵庫県立歴史博物館、

【京都府】弥栄町教育委員会、大宮町教育委員会、京都府立丹後郷土資料館、城陽市歴史民俗資料館、大山崎町歴史資料館

【大阪府】キッズプラザ大阪、大阪市立自然史博物館

【その他】八戸市博物館、徳島県立博物館、黒石市教育委員会、滋賀県立長浜文化芸術会館、北海道立北方民族博物館、日本ユネスコ協会連盟、山武考古学研究所

【国外】D. トゥムルバートル、I. ルハグワスレン(いずれもモンゴル国)
 S. デンベレル、ブリヤート共和国

2. 寄託

水石朽ち木仏像群	平安時代	27点
	但東町水石	水石区
高札	江戸時代	2点
	但東町坂野	岡田徳太郎氏
尖頭器	後期旧石器時代	1点
	但東町木村	太田 尚氏
須恵器	古墳時代	2点
	但東町木村	太田 尚氏
わら谷争議裁許状	江戸時代	1点
	但東町木村	太田 尚氏
庚申像	江戸時代	1点
	但東町木村	太田 尚氏
わら谷争議裁許状	江戸時代	1点
	但東町西野々	西野々区
庚申塔	江戸時代	2点
	但東町畑	東覚寺
道標	江戸時代	2点
	但東町大河内	楽音寺

道標	江戸時代	1点
	但東町出合市場	出合市場区
モンゴル切手の原画	現代	1点
	兵庫県神戸市	速水順一郎氏
モンゴル切手の原画	現代	1点
	東京都	羽藤 雄次氏
経筒外容器	平安～鎌倉時代	1点
	但東町久畑	久畑区
経筒外容器	平安～鎌倉時代	1点
	但東町栗尾	栗尾区
経筒外容器	平安時代末葉	1点
	但東町薬王寺	大生部兵主神社
秋草双鳥文鏡	平安時代末葉	1点
	但東町薬王寺	大生部兵主神社

3. 購入資料

- | | |
|---------------------------|------|
| (1) 彫刻『チンギス・ハーンの宮殿を運んだ牛車』 | 1式 |
| (2) 彫刻『遊牧の移動』 | 1点 |
| (3) 工芸品・銀製のゲル | 1点 |
| (4) 馬乳酒加工袋 | 1式 |
| (5) 中型ナベ | 1点 |
| (6) 小型ナベ | 1点 |
| (7) モンゴルテーブル、椅子 | 1セット |
| (8) 五徳トルガ | 1点 |

4. 資料の貸出

平成9年度において東京都、滋賀県、京都府の5会場にモンゴル民族資料を貸し出した。東京はJR大森駅に近い大森ベルポートを会場に1週間で約1万5千人の方が見学した。4000部準備したパンフレットはすぐに無くなってしまった。滋賀県の3文化芸術会館ではモンゴル現代絵画展と併行して実施した。京都では廃校になった旧西陣小学校を会場に京都こども博物館を実施した。2日間の開催であったが、約6千人の親子が見学した。5会場全体で約2万5千人の方に見学いただいた。

- | | | |
|-----------------------------|------|-----------------|
| (1) モンゴルフェア実行委員会 (根岸健一氏) | 110点 | 平成9年4月14日～4月21日 |
| (2) 滋賀県立長浜文化芸術会館 | 150点 | 平成9年7月13日～7月27日 |
| (3) 滋賀県立安曇川文化芸術会館 | 150点 | 平成9年8月2日～8月17日 |
| (4) 滋賀県立水口文化芸術会館 | 150点 | 平成9年9月13日～9月28日 |
| (5) 京都こども博物館 (京都堀川ライオンズクラブ) | 250点 | 平成9年9月13日～9月15日 |

5. 資料の燻蒸

平成9年10月28日～30日に収蔵庫(54.6㎡)を株式会社昭和駆除にてガス燻蒸処理を実施した。燻蒸方法は密閉で燻蒸剤エキボンを使用し、24時間燻蒸した。結果は燻蒸処理後のテストサンプルから、殺虫殺卵効果、殺カビ効果は100%と財団法人文化財虫害研究所にて判定された。

6. 文化財標柱設置

町内に所在している町指定文化財の標柱を平成9年度事業として5カ所設置した。標柱の設置箇所は佐田古墳(但東町佐田)、栗尾古墳(但東町栗尾)、奥藤古墳(但東町奥藤)、大生部兵主神社(但東町薬王寺)、旧金蔵山金蔵寺(但東町中山)に土地所有者の了解のうえ実施した。



(文化財標柱設置状況)

Ⅵ. 普及教育事業

1. 普及行事

【平成8年度】

■ こども陶芸教室（講師：美蔦昇氏）

と き：平成9年3月9日(日)

場 所：博物館創作室

参加者：14名

■ 現代モンゴル絵画展

と き：平成9年3月21日～30日

場 所：博物館多目的ホール

新潟モンゴル親善協会の協力により、モンゴルの著名画家であるオドン、ナツツァグドルジ、ツェレン、バザルバニー等を紹介した。

■ モンゴル馬頭琴ミニコンサート

と き：平成9年3月24日(月)

場 所：博物館多目的ホール

入場者：50名

演奏者：モンゴル国立歌舞団ムンフバット氏（馬頭琴・ホーミー）、ベレール氏（モンゴル琴）

■ モンゴル文化講座

西村幹也氏（モンゴル情報誌「しゃがあ」）『遊牧民の生活と文化』

と き：平成9年3月25日(火)19:00～20:30

場 所：博物館多目的ホール

参加者：13名

■ 博物館教室

①陶芸教室（講師：美蔦昇氏）

と き：平成9年3月27日(木)

場 所：博物館創作室

参加者：12名



(松尾隆講師による絵画教室)

②絵画教室（講師：松尾隆氏）

と き：平成9年3月29日(日)・30日(月)

場 所：博物館創作室

参加者：21名

【平成9年度】

■ ハカス共和国の音楽コンサート～チャトハンとハイ～ モンゴル民族の伝統的な歌唱法ホーミーに似たハカス共和国の音楽を日本口琴協会の協力を得て、兵庫現代劇場・但東町・博物館が主催した。

と き：平成9年6月6日(金)

場 所：但東町民ホール入場者：250名

演奏者：アヨーシナ、ウルグバシエフ、チャルコーフ、クチェノーフ

■ ウィークエンドクラブ

小学校1年から中学校3年までを対象にしたもので、週末に学校を離れてさまざまな体験をしようという事業。平成9年度は以下の事業を開催した。

①モンゴルの移動式住居ゲルを組み立てて宿泊体験をしよう（講師：大岸主事）

と き：平成9年8月2日(土)～3日(日)

場 所：博物館前の芝生広場

参加者：13名



(縄文土器を作ってみよう)

②縄文土器を作ってみよう（講師：金津副館長）

と き：平成9年8月3日(日)

場 所：博物館創作室

参加者：9名

③こども陶芸教室（講師：長岡稔氏）

と き：平成10年1月24日(土)

場 所：博物館創作室

参加者：38名



(版画教室)

④版画教室 (講師：金津副館長)

と き：平成9年12月20日(土)

場 所：博物館創作室

参加者：20名

⑤博物館職員を一日体験しよう (講師：大岸主事、森脇、渡辺、加藤)

と き：平成10年3月28日(土)

場 所：博物館

参加者：6名

■ モンゴル文化講演会

モンゴルの文化についてより知識を深めていただく
と平成9年度から開催した。

①第1回 講師：吉本周平氏 (モンゴル通信)

演題「モンゴル基礎理解」

参加者：16名

と き：平成9年7月28日

②第2回 講師：芝山豊氏 (モンゴル研究会)

演題「ナツァグドルジと娘アーナンダシュリー」

参加者：18名

と き：平成9年7月29日

③第3回 講師：大塚知則氏 (写真家)

演題「スライドで現代モンゴルを語る」

と き：平成9年11月2日

参加者：20名



(田中克彦教授による文化講座)

④第4回 講師：田中克彦氏 (一橋大学教授)

演題「世界のモンゴル族」

参加者：53名

と き：平成9年11月3日

⑤第5回 講師：ルハグワスレン氏 (国立民族学博物館
外来研究員)

演題「遊牧民族の伝統と文化」

参加者：27名

と き：平成10年1月25日



(ルハグワスレン氏による文化講座)

■ 企画展講演会

平成9年度は3回の企画展を開催したが、第3回企画
展「よみがえる出石郡衙～袴狭遺跡～」について、よ
り多くの方に理解を深めていただくために講演会と展
示説明会を開催した。

講 師：小寺誠氏 (出石町教育委員会) 「よみがえる
出石郡衙～袴狭遺跡～」

と き：平成9年10月5日(日)

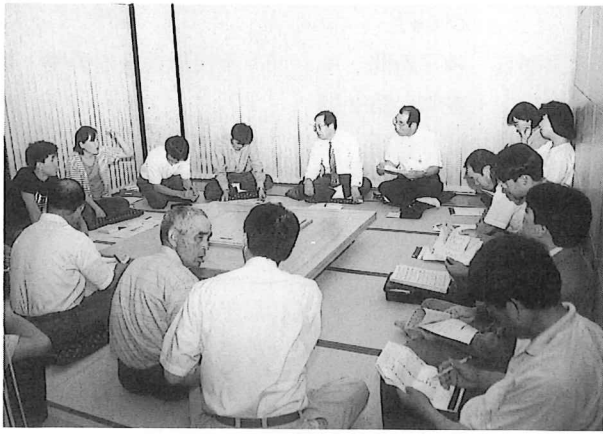
場 所：博物館多目的ホール

参加者：12名

■ モンゴル語初級講座

赤花化工株式会社の技術研修生として来日していたテ
ムレーン氏とムソフツェツェグ氏、ダライバヤル氏を
講師として、平成9年6月から11月までの半年にわた
って開設した。

第1回講座	6月24日(火)	10名
第2回	7月8日(火)	4名
第3回	7月22日(火)	10名
第4回	8月5日(火)	19名
第5回	8月12日(火)	4名
第6回	9月2日(火)	5名
第7回	9月9日(火)	7名
第8回	10月7日(火)	5名
第9回	10月21日(火)	5名
第10回	11月4日(火)	4名
第11回	11月18日(火)	3名



(いろいろ端でのモンゴル語教室)

2. 講師派遣

館外からの依頼を受けて行った講師派遣を、月日・担当者・内容・(依頼者)の順に記録しておく。これらも広義の普及教育活動につながるのと観点から、業務に支障のない範囲で依頼を受け入れることにしている。

【平成8年度】

- 4月26日 金津匡伸 『モンゴル草原の歴史と文化』
関宮町教育委員会
- 4月28日 金津匡伸 『モンゴルの魅力』
岡山モンゴル友好協会
- 6月2日 金津匡伸 『モンゴルとの国際交流』
養父町国際交流協会
- 7月30日 金津匡伸 『あもこが来る』
青森県八戸市民大学
- 8月21日 金津匡伸 『モンゴルとの国際交流』
但馬社会教育協議会
- 11月17日 金津匡伸 『国際交流と街づくり』
東播磨500人委員会セミナー
- 1月26日 金津匡伸 『モンゴルとの国際交流』
出石町教育委員会同友会
- 2月14日 金津匡伸 『モンゴル博物館の開設について』
豊岡ロータリークラブ
- 2月18日 金津匡伸 『モンゴル博物館について』
但馬地区身体障害者協議会
- 3月16日 金津匡伸 『モンゴルとの国際交流で街づくり』
竹野町中地区婦人会
- 3月16日 金津匡伸 『モンゴルとの国際交流で街づくり』
竹野町南地区婦人会
- 3月27日 金津匡伸 『モンゴルの食文化』
全但給食センター

【平成9年度】

- 5月9日 金津匡伸 『国際交流と街づくり』
兵庫県立いなみ野学園4年生

- 5月9日 福田芳郎 『21世紀の但馬を考える』
兵庫県立みてやま学園
- 5月29日 金津匡伸 『モンゴルとの国際交流』
但馬社会教育・公民館運営審議会定期総会
- 6月19日 金津匡伸 『地方博物館の在り方』
兵庫県立いなみ野学園3年生
- 6月26日 福田芳郎 『明日の但馬を考える～出石郡～』
出石町寿会女性部リーダー研修
- 7月5日 金津匡伸 『国際交流と地域づくり』
生野町国際交流協会
- 7月13日 金津匡伸 『モンゴルの風土と現在』
滋賀県立長浜文化芸術会館
- 7月18日 福田芳郎 『21世紀の但馬を考える』
出石町老人会総会
- 8月3日 金津匡伸 『モンゴルについて』
但東北中学校1学年PTA研修
- 8月8日 金津匡伸 『モンゴルの子供たち』
但馬子育てインストラクター研修
- 8月10日 金津匡伸 『モンゴル』
全国子供会連合会
- 8月11日 金津匡伸 『モンゴルとの国際交流』
生野小学校校内研修
- 9月20日 金津匡伸 『モンゴルとの国際交流で街づくり』
頂福寺(豊岡市瀬戸)
- 10月18日 金津匡伸 『モンゴルとの国際文化交流について』
兵庫県高教組但馬支部
- 12月14日 金津匡伸 『モンゴルの魅力・大自然と人々の暮らし』
広島市栄々園公民館
- 12月24日 金津匡伸 『モンゴルとの国際交流』
出石町ライオンズクラブ
- 1月23日 金津匡伸 『モンゴルとの国際交流で街づくり』
但馬税務担当者会議
- 2月12日 金津匡伸 『国際交流と博物館』
兵庫県博物館協会
- 2月20日 金津匡伸 『モンゴルに魅せられて』
出石町静思塾
- 3月6日 金津匡伸 『モンゴルとの国際交流で街づくり』
香住町国際交流協会
- 3月12日 金津匡伸 『国際交流から学んだこと』
白ばらリーダー講座

3. 広報活動、報道機関への出演・掲載等

館外からの依頼を受けて行ったテレビ・ラジオへの出演、新聞報道等を記録しておく。これらも広義の普及教育活動につながるのと観点から、業務に支障のない範囲で依頼を受け入れることにしている。

(1) テレビ・ラジオへの出演等

【平成8年度】

- 3月31日 ラジオ関西 「ひょうごフリータイム モンゴル博物館平成8年秋オープン」
- 11月13日 山陰ラジオBSF「情報マップ・なんとなんと」
- 1月17日 YBC山形放送ラジオ生放送「関西井上義光のさわやかジャーナル」
- 1月23日 フジテレビ取材
- 2月11日 関西テレビ (2月22日放映)
- 2月16日 ラジオ関西 ひょうごフリータイム
- 2月25日 NHKラジオジャパン マガジン・アワー



(NHKひるどき日本列島 生放送中)

【平成9年度】

- 4月5日 NHKラジオ深夜便 25時のインタビュー「日本・モンゴル民族博物館副館長金津匡伸さん」
- 5月15日 NHKひるどき日本列島生放映「機織りの里にモンゴルあり」
- 9月20日 KBS韓国放送取材



(NHKひるどき日本列島 リハーサル)

(2) 新聞・雑誌等への掲載記事

【平成8年度】

- 5月9日 神戸新聞 但東町 モンゴルへ毛布200枚 大規模火災救援第1弾

- 5月25日 産経新聞 モンゴルに義援金きょうから呼びかけ
- 5月26日 神戸新聞 モンゴル救援義援金を募集 但東町が第2弾
- 7月27日 朝日新聞 学芸 ふるさと発 日本モンゴル民族博物館 交流の成果集め開館へ
- 8月27日 神戸新聞 モンゴルの中学生2人 但東町に留学
- 9月30日 神戸新聞 町制40周年迎えた但東町 国際化もにらむシルクの里
- 9月1日 『すかいくらぶ9月』 日本でいちばんモンゴルに近い町兵庫県但東町
- 9月1日 『月刊オール関西9月号』 但東日本モンゴル民族博物館が開館
- 11月 『北近畿情報誌SAERA』 モンゴルの風
- 11月2日 神戸新聞 いよいよあす待望オープン日本・モンゴル民族博物館
- 11月3日 毎日新聞 モンゴル博物館きょうオープン兵庫・但東町
- 11月4日 朝日新聞 博物館3000人入場 「横綱」の指導に歓声
- 11月4日 読売新聞 但東町に日本・モンゴル民族博物館オープン 草原の文化満喫
- 11月4日 神戸新聞 予想上回る3000人が入館 交流促進へサミット宣言
- 11月16日 朝日小学生新聞 日本初モンゴルの専門博物館 兵庫・但東町にオープン
- 11月20日 朝日新聞 ひと 開館した日本・モンゴル民族博物館の副館長金津匡伸さん
- 12月 『県民だよりひょうご12月号』 モンゴル草原の風を迎えて モンゴル博物館オープン
- 12月10日 毎日新聞夕刊 こんにちは話 遊牧民の息吹がほら モンゴルを民具で語る金津匡伸さん
- 12月17日 『The Japan Times』 Museum offers taste of Mongolia
- 12月17日 両丹日々新聞 見学の勧め モンゴル博物館
- 12月25日 スポーツニッポン 日本にあったァ! 遠くて近きモンゴルの町! 胸打たれる恩情
- 12月28日 神戸新聞 96たじま この1年 モンゴル博物館が開館
- 12月 『関西おもしろ博物館』 村おこしで始めた交流の成果を集めて誕生した 日本・モンゴル民族博物館
- 1月1日 『ひょうご共済No.97』 わが街紹介 出石郡但東町
- 1月1日 『但馬の情報誌T2』 まちづくり進化論 国際交流からのまちづくりモンゴルとの交流

- 1月7日 読売新聞 未来の座標4 但馬・丹波を考
える 過疎逆手に活性化
- 1月8日 読売新聞 300字通信 モンゴルとの懸け
橋に
- 1月11日 京都新聞 新自由人宣言金津匡伸さん こ
だわりを捨てると遊牧民のように身軽にな
れる
- 1月17日 『広報ひだか』 施設見学記①日本・モン
ゴル民族博物館
- 1月25日 日本物流新聞 ちょっと訪ねてみませんか
日本・モンゴル民族博物館
- 1月28日 朝日新聞 入館1万人超す日本・モンゴル
民族博物館開館から71日目
- 1月28日 読売新聞 モンゴル博物館入場1万人突破
- 1月28日 神戸新聞 入館者が1万人突破 但東・モ
ンゴル博物館
- 1月28日 毎日新聞 日本・モンゴル民族博物館 入
館者数1万人突破
- 2月1日 『旭影2月号』 カメラ・ルポ 東西の交
わる子午線の町 但東町
- 2月10日 『亜細亜倶楽部2月号』 専門家が舌を巻
いた日本初のモンゴル民族博物館
- 3月1日 『TheCommunityCare』 FACE 不思議
なくらいに懐かしい 日本モンゴル民族博
物館副館長 金津匡伸さん
- 3月1日 『いきいき但馬21第6集』 但馬の草の根に
広がる国際交流
- 3月10日 『BE-PAL3月号』 なぜか但馬の山奥
に出現!日本唯一モンゴル専門博物館
- 3月23日 神戸新聞 但東町 火傷モンゴル少女に募
金 きょう救援演奏会
- 3月10日 読売新聞夕刊 草原の若ワシ旭鷲山物語⑥
- 3月20日 『500人会だより たじま』 ふるさと情
報「日本・モンゴル民族博物館」オープン
- 【平成9年度】
- 4月1日 『TRIANGLE』但東町の文化創造の空間
日本・モンゴル民族博物館
- 4月3日 日刊スポーツ 日本のシルクロードで大草
原の匂いを 兵庫県但東町
- 4月23日 タウンタウン 5000点の収蔵品で遊牧民の
歴史や文化などを紹介
- 5月1日 『原子力文化5』 兵庫県但東町 世界史
をつくった民族
- 5月2日 神戸新聞 「縄文人の暮らしと文化」展
貴重な出土品ざらり
- 5月15日 毎日新聞 可愛い仕草に人気急上昇 但東
町の日本・モンゴル民族博物館
- 5月16日 神戸新聞 「ふたりっ子」岩崎さん 但東
からTV中継
- 5月25日 神戸新聞 モンゴル博物館が縁に ハカス
の民族音楽但東町で初公開へ
- 5月29日 神戸新聞夕刊 ハカス共和国の民族音楽
但東町で初公開
- 6月2日 神戸新聞 但東町から交流拡大 モンゴル
に多彩な懸け橋 民族博物館の試み
- 6月15日 神戸新聞 デスク回線 ハカス音楽との出
会い
- 6月15日 読売新聞 プレーリーは人気者
- 6月20日 神戸新聞 但東町の日本・モンゴル民族博物
館プレーリードッグの赤ちゃん4匹すくすく
- 6月23日 産経新聞 交流の舞台裏の「出会い」 遊
牧民の暮らし伝える博物館建設
- 6月26日 『北近畿Vol.78』 カルチャー・エン
ジョイ旅 博物館
- 7月10日 『亜細亜倶楽部7月号』 人 モンゴルに
魅せられ異色の転身 日本・モンゴル民族
博物館 金津匡伸副館長
- 7月10日 産経新聞 但東町・モンゴル民族博物館
- 7月18日 神戸新聞 モンゴル歌手ソロンゴさんのス
テージも あす但東ふれあいまつり
- 7月15日 『ひょうご倶楽部Vol.36夏の号』 ひ
ょうご人物図鑑 モンゴルとの交流で町お
こしに一役 金津匡伸さん
- 8月6日 神戸新聞 養父郡の知的障害者と保護者
但東町で交流の旅 モンゴル博物館見学
- 8月12日 神戸新聞 但東のモンゴル博物館 ゲルに
泊まり遊牧民体験 全国から参加の若者
- 8月16日 神戸新聞 宗教的要素強い伝統の絵「ナク
タン」 但東の博物館で創作活動
- 8月19日 朝日新聞 モンゴル人画家 画材購入費販
売で協力 絵心交流、活動を支援
- 8月23日 日本海新聞 モンゴル宗教画の第一人者・
ウルタナサンさん 但東町で創作活動快調
です
- 10月 『With kampo』小さな町の大きな国際性
モンゴル・日本の交流の橋渡し
- 10月7日 読売新聞 但東・日本モンゴル博物館「七
人のこびと」石像に 愛らしい表情生き生き
- 10月7日 朝日新聞 日本・モンゴル民族博物館 芝
生広場に「七人のこびと」
- 10月10日 神戸新聞 但東町の日本・モンゴル民族博
物館 7人の小人お目見え
- 10月20日 『ひょうご舞台芸術秋号』 草原の民ハカ
スの吟遊詩人を囲んで

- 11月1日 神戸新聞 但東町の日本・モンゴル民族博物館のオープン1周年記念講演会
- 11月2日 読売新聞 モンゴルの巨匠水彩画など展示 但東町文化展開催
- 11月13日 京都新聞 モンゴル文化触れてみては
- 12月8日 毎日新聞 県「さわやか街づくり賞」建築物部門 モンゴル民族博物館が受賞
- 12月9日 産経新聞 県さわやか街づくり賞 但東町「日本・モンゴル民族博物館」
- 12月24日 毎日新聞 史跡、古文書、旧家に伝わる珍品など展示但東の文化財展
- 12月25日 神戸新聞 日本・モンゴル民族博物館に県さわやか街づくり賞
- 12月25日 『日本全国ユニーク博物館・記念館』 砂漠の民と森の民の出逢いが生んだ新たな交流の場 日本・モンゴル民族博物館
- 1月19日 朝日新聞 日本・モンゴル民族博物館 入館者5万人目神戸の岩本さん
- 1月19日 神戸新聞 入館5万人達成日本・モンゴル民族博物館 開館から442日目
- 1月20日 読売新聞 モンゴル博物館の入場5万人突破
- 1月20日 神戸新聞 但東町でモンゴル文化講座
- 1月30日 京都新聞 山里の問いかけ
- 3月21日 神戸新聞 モンゴル大使初訪問 路上生活の子供ら支援
- 3月24日 読売新聞 友好都市提携の但東町へ モンゴル駐日大使訪問
- 3月24日 産経新聞 モンゴルの駐日大使が訪問 民族博物館など視察
- 3月24日 毎日新聞 駐日モンゴル大使交流深い但東町を初訪問「空気新鮮チンギス・ハンの古里みたい」
- 3月24日 神戸新聞 モンゴル大使但東町を初訪問 さらに深い交流を博物館視察し研修生激励
- 3月24日 朝日新聞 モンゴルの特命大使但東を訪問「故郷と風景にてる」
- 3月29日 読売新聞 民族博物館で一日職員体験 但東の小中生
- 3月29日 神戸新聞 モンゴル博物館で小中学生 一日職員に挑戦 草原の暮らしぶり説明

4. 出版活動

館外からの原稿依頼を受けて行った雑誌や機関紙等を記録しておく。これらも広義の普及教育活動につながるとの観点から、業務に支障のない範囲で依頼を受け入れることにしている。また、平成9年4月から月刊亜細亜倶楽部の紙面を借りてモンゴルに関する記事を当館提供

として金津が連載している。

- (1) 金津匡伸 『日本・モンゴル民族博物館』 郷土資料館友の会だより
京都府立丹後郷土資料館 平成9年1月31日
- (2) 金津匡伸 『日本・モンゴル民族博物館の開設』 豊岡ロータリークラブ会報 平成9年2月21日
- (3) 金津匡伸 『あもこが来る』 96' 伝統と未来 八戸市教育委員会 平成9年3月14日
- (4) 金津匡伸 『私の生きがいを求めて』 兵庫教育1997. 7月号
兵庫県立教育研修所 平成9年7月1日
- (5) 亜細亜倶楽部1997 4月号 平成9年3月10日
「モンゴル相撲と努力の人・旭鷲山」「全国モンゴル連絡協議会発足」
- (6) 亜細亜倶楽部1997 5月号 平成9年4月10日
「モンゴルに関する諺」「日本モンゴル外交樹立25周年」
- (7) 亜細亜倶楽部1997 6月号 平成9年5月10日
「モンゴル現代トピックス」「不思議な歌唱法ホームミー」
- (8) 亜細亜倶楽部1997 7月号 平成9年6月10日
「モンゴル犯罪事情」「牧民の住居ゲル」
- (9) 亜細亜倶楽部1997 8月号 平成9年7月10日
「新しい大統領誕生」「モンゴル博物館で楽しい夏祭り」
- (10) 亜細亜倶楽部1997 9月号 平成9年8月10日
「ジャパンフェスティバル開催」「草原の遊びシャガイ」
- (11) 亜細亜倶楽部1997 10月号 平成9年9月10日
「モンゴルのダヴィンチ・ザナバザル」「モンゴル近代文学の父・ナツァグドルジ」
- (12) 亜細亜倶楽部1997 11月号 平成9年10月10日
「モンゴルとの交流で町おこし」「モンゴル食料事情」
- (13) 亜細亜倶楽部1997 12月号 平成9年11月10日
「モンゴルの運輸通信事情」「モンゴル観光事情」
- (14) 亜細亜倶楽部1998 1月号 平成9年12月10日
「現代モンゴルが抱えている貧困の縮図マンホールチルドレン」
- (15) 亜細亜倶楽部1998 2月号 平成10年1月10日
「恐竜の宝庫ゴビ砂漠」「モンゴル駐在日記」
- (16) 亜細亜倶楽部1998 4月号 平成10年3月10日
「チャーリップとモンゴル博物館」「自由市場ザハ探訪」

Ⅶ. 国際交流事業

1. モンゴルとの国際交流

【第1期（昭和60年～平成6年10月）】交流の始まり

但東町は文化年間より、但馬ちりめんの本場として京都西陣と絹織物を通して、盛んに「人・物・文化」の交流がされていました。しかし過疎・高齢化に悩むなかで、昭和58年から都市と農村との交流により町の活性化を図る「但東シルクロード計画」を織物の産地にちなみ推進してきた。

昭和60年秋より大阪外国語大学モンゴル学科の遊牧地域研究開発チームによる「中山間地域の農村調査」を受け入れ、町内における農村の実態調査が実施された。その後、農家や畜産家、村おこしリーダー等の係わりのなかからモンゴル料理講習会、モンゴルの子どもたちとの作品交流、モンゴル政府関係者の訪問へと進展した。そして赤花化工株式会社の本田重美氏の日本とモンゴルとの共同プロジェクトであるゴビ・プロジェクトへの参加となった。平成6年10月に開催された「森と砂漠を結ぶ国際シンポジウム」開催までの期間を第1期として位置付けている。

【第2期（平成6年11月～）】新しい交流

「森と砂漠を結ぶ国際シンポジウム」終了以降に始まった但東町独自の国際交流を第2期として位置付けている。町民使節団の派遣、モンゴル学生の招聘事業、モンゴル博物館の建設、モンゴル芸術家支援、モンゴルへの援助活動というように文化交流に主眼をおいた新しい国際交流を展開している。

【国際交流年譜】

- | | | | |
|--------|--|--|--|
| 平成2年6月 | 日本モンゴル共同第1次ゴビ・遊牧地域研究調査に赤花化工株式会社社長の本田重美氏が参加。 | 1副首相、科学教育省大臣ら政府要人を表敬訪問するかたわら、南ゴビ地域の郡長や農牧業組合長等とも交流を重ね、友好を深めた。 | |
| 平成3年8月 | 3名の遊牧民エルデネビリック、バットバヤル、ボルドスフが農業と工業技術研修生として来町（10カ月間）。 | 平成6年3月 | モンゴル国から寄贈されたゲルを保管する「モンゴルゲルセンター・オールドン(宮殿)」を建設して一般に公開。 |
| 平成4年4月 | モンゴル国民族発展省副大臣、対外関係省総合政策局長等の政府要人の来町。 | 7月 | 但東町国際交流協会(会員130名)を設立。 |
| 4月 | 元モンゴル国立大学長、ゴビプロジェクト事務局長等らと共に兵庫県知事を表敬訪問。 | 10月 | 但馬地域1市18町を会場に「但馬・理想の都の祭典」が開催され、但東町では10月4日から11日までの8日間「森と砂漠を結ぶ国際シンポジウム&音楽祭」を開催。モンゴルから41名を招聘し、モンゴルのゴビ砂漠地帯の村おこしの方向を明らかにし、日本海を囲む広範な地域と人々との連携をめざす「環日本海地域住民圏構想」などを提案した。 |
| 9月 | モンゴルの天幕住居ゲル5基がモンゴル国より寄贈された。 | 12月 | 青森県在住の元在モンゴル国日本大使館員の金津匡伸氏から「但東町とモンゴルとの交流発展のために」とモンゴル国で収集した民族資料5000点を含む1万点を但東町に寄贈。 |
| 平成5年9月 | 町長、町議会議員、町教育委員等町民8名が第1回但東町日本モンゴル友好使節団として6日間モンゴルを訪問した。第 | 平成7年3月 | 金津匡伸氏が青森県八戸市から家族ぐるみで但東町に転入。 |
| | | 4月 | 日本モンゴル民族博物館建設対策室を役場内に設置。 |
| | | 7月 | 町議会で日本モンゴル民族博物館建設を可決。 |
| | | 8月 | 「第2回但東町日本モンゴル友好使節団」として町議会議員を団長として町民15名が首都ウランバートル市を中心に訪問。文化交流や遊牧体験等を行った。 |
| | | 8月 | モンゴルの11才児童プーチュが資母小学校に3カ月の短期留学。 |
| | | 10月 | 金津氏寄贈のモンゴル民族資料5千点を一般公開。 |
| | | 12月 | 自治省・外務省後援の「モンゴルを通じたふるさとづくり事業」により、モンゴルの地域リーダー（教育福祉関係者）8名が来町、ホームステイにより滞在。 |
| | | 12月 | モンゴルからの長期（1年）研修生T・バヤラー1名、短期（3カ月）研修生エルデネビリック、バットバヤル2名来町。 |

- 12月 日本モンゴル民族博物館の起工式。
- 平成8年5月 モンゴル森林火災への緊急支援物資毛布200枚を送付。
- 6月 長期研修生の家族来町（妻子2カ月半滞在）。
- 6月 資母小学校1年にモンゴルからのザヤー2カ月の体験入学。
- 7月 モンゴル森林火災に対する義援金を町民に呼びかけ、総額130万円を駐日モンゴル大使館を通じてモンゴル国へ送付。
- 8月 資母小学校6年生3名がモンゴル国を訪問。
- 8月 モンゴルの14才になる中学生2名の受入れ。
- 10月 モンゴル国立民族歴史博物館前館長I.ルハグワスレン氏を招聘。
- 11月 日本・モンゴル民族博物館オープン
- 平成9年1月 モンゴルから1年の長期研修生U.テムレンが来町。
- 7月 商工会青年部がモンゴルの歌姫ソロンゴを夏まつりに呼び、モンゴルのステージを実施。
- 7月 モンゴルから3カ月の短期研修生ムンフツェツェグさんが来町。
- 8月 モンゴルの中堅画家D.ウラタナサンを招聘し、博物館で創作活動を支援。
- 8月 「第3回但東町日本モンゴル友好使節団」として奥田町長を団長として13名がモンゴルを訪問し、中学生招聘者の面接、孤児院への激励訪問、日本文化の紹介、遊牧体験など多彩な交流活動を実施した。
- 8月 モンゴルから1年の長期研修生T.ダライバヤルが来町。
- 平成10年3月 駐日モンゴル国大使館からフレルバートル特命全権大使、ジグジット一等書記官が本町視察のため来町。

2. モンゴル森林大火災へのチャリティーコンサート

但東町では平成8年5月11日に緊急支援物資として毛布200枚をモンゴル航空の協力で緊急輸送した。第2弾の救援活動として但東町国際交流協会（福田芳郎会長）においても、町民に義援金の呼びかけをした。130万円の義援金が集まり、駐日モンゴル大使館を經由して国家緊急対策委員会へ届けた。

また、モンゴルの草原大火災で火傷を負った少女ガンツェツェグさん（18才）を応援するチャリティー「モンゴル・日本の調べふれあいコンサート」を平成9年3月



（チャリティーコンサートの出演者）

23日に但東町町民センターで開催した。出演はモンゴル国立歌舞団所属のムンフバット氏とベレールさん、ハーモニカ奏者のもり・けんさんと童謡歌手の井上かおりさんの4名である。

平成8年春のモンゴルの草原火災でガンツェツェグさんは全身の4割に火傷を負い、東海大学付属病院で治療を続けていた。ムンフバット氏とベレールさんは彼女の治療費を集めるために来日し、各地でチャリティー活動を続けていた。3月24日には博物館多目的ホールでムンフバット氏とベレールさんによるチャリティー・ミニコンサートを2回開催した。

3. ハカス共和国民族音楽コンサート

平成9年6月6日、南シベリアのハカス共和国の民族音楽が但東町町民センターで初公開された。ハカス共和国はロシア連邦の一つで、エニセイ川上流のアジア中央部地域に住む人口約60万人の国で、そのうちハカス民族は約8万人のステップ牧畜民である。

公演は兵庫県現代劇場と但東町・日本・モンゴル民族博物館が主催し、ハカスを代表する民族楽器チャトハン、のど歌ハイの演奏で、モンゴルとは一味違う雄大な草原文化を奏でた。チャトハンは日本の琴に似た楽器で、7本の金属弦を持ち、琴柱には羊の骨が使われ、本来は英雄叙事詩を語り歌うための伴奏に使用されていた。叙事詩は数週間にわたる長大なものもあり、言葉を間違えたり、筋を混乱すると、語り手の命が縮むと伝えられてきた。このときに歌われる歌唱法がハイである。モンゴルのホーミーと近似するもので、一人二重唱と呼ばれるように一人の人間が低音と高音を同時に出す歌唱法である。

今回の公演は当初、神戸市で上演することが決まっていたが、兵庫県現代劇場の理事でもある大阪大学の山口修教授らの推薦で「ハカス民族はモンゴルの文化的影響を強く受けている。日本・モンゴル民族博物館ができた但東町で開催しては」との声が上がり、実現することができた。

ハカス民族の伝統音楽は平成6年にテレビで断片的に紹介されただけである。公演は二弦の撥弦楽器ホムィス、口琴ティムル・ホムィスなどの楽器演奏と日本の楽器との比較説明も行われた。司会は大阪大学の山口修教授、解説は日本口琴協会の直川礼緒代表。



(ハカス共和国民族音楽コンサート)

4. モンゴル芸術家支援

モンゴル現代絵画の中堅画家D. ウラタナサン氏を平成9年8月1日から9月10日まで招聘し、創作活動を支援した。ウラタナサン氏は1977年にウランバートル市芸術専門学校を卒業し、1982年からモンゴル切手の原画制作に携わってきた。1992年カザフスタン共和国で開催された世界切手展、翌年にはインドのデリーでのユニセフ主催展覧会で連続してグランプリを受賞し、世界的に名を高めた。

モンゴルでは経済的な混乱から、芸術家は画材道具すら満足に買えない状況が続いている。多くの芸術家は観光客相手に《モンゴルの大草原》といった絵を描いて収入を得ているのが現状である。ウラタナサン氏は宗教画の影響を強く受けたナクタンと呼ばれる技法を得意とする。滞在中に3枚の絵画「王妃マンドハイ」「馬頭琴を弾く老人」「モンゴル一日」を描いていただき、博物館の常設展に追加した。

5. 駐日モンゴル大使の訪問

但東町が交流しているモンゴルのフレルバートル駐日大使が平成10年3月23日、初めて但東町を訪れ、博物館や町内施設を視察したり、モンゴルから技術研修に来ているダライバヤル氏らを激励した。博物館の視察では、

近くの資母小学校の児童60名に拍手で迎えられた。

但東町はチンギス・ハーンの生まれたダダル村と風景が似ており、空気が新鮮なのが気に入ったと感想を漏らしていた。また、「但東町に来てみて、モンゴルとの交流の深さが思っていた以上なのに感激した」と答えていた。町役場では路上で生活している子供たちを援助しようと町内から寄せられた古着や野球用具など段ボール箱33箱分の目録と町内有志からの義援金30万円が奥田町長から手渡された。職員たちを前に「博物館は現在のモンゴルの生活を詳細に紹介していてすばらしい。両国民の相互理解につながり、交流に役立つ。さらなる交流の発展を」と挨拶され、翌24日は神戸に向かい、知事公館で芦田弘逸副知事を表敬訪問した。



(フレルバートル大使を迎える児童と福田館長)



(フレルバートル大使を案内する奥田町長)

6. 外国からの来館者

【平成8年度】

- 10月5日 モンゴル国立歴史民族博物館前館長ルハグワスレン氏
- 11月1日 モンゴル相撲横綱バヤンムンフご夫妻
- 11月1日 駐日モンゴル大使館ジグジット・レンツェンドー一等書記官
- 11月3日 内モン古師範大学アマルバト教授
- 11月9日 在モンゴル日本大使館職員S. デンベレル氏

- 12月4日 モンゴル文部省R. エルデネバト次官
- 12月18日 モンゴル政府広報紙「アルディンエルフ」
ミヤグマルサンボー編集長
- 1月20日 モンゴル農牧業協同組合連合会職員ナラン
ツァツァル氏
- 3月24日 モンゴル国立歌舞団、馬頭琴奏者ムンフバ
ット氏、モンゴル琴奏者ベレール氏

【平成9年度】

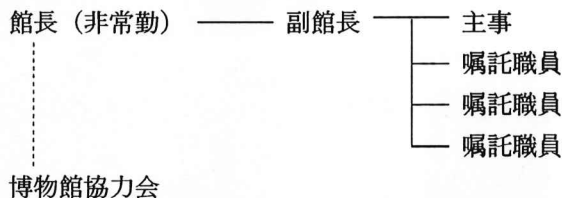
- 4月4日 モンゴル外務省アジア・アフリカ局ダシブ
レブ氏
- 6月5日 ハカス共和国歌舞団
リュボーフィ・アヨシナ（ハカス共和国
最高会議代議員、ロシア連邦文化功労者）
エヴゲーニイ・ウルグバシエフ（ハカス国
立フィルハーモニー所属）
セルゲイ・チャルコーフ（喉歌唱者、楽器
製作者）
ヴァチェスラフ・クチェノーフ（ハカス文

- 化教育学術方法センター助手)
- 7月19日 モンゴル歌手ソロンゴ氏
- 8月1日 モンゴル芸術家D. ウラタナサン氏
- 8月21日 モンゴル航空大阪支店ウルジー氏
- 3月23日 駐日モンゴル国大使館
S. フレルバートル特命全権大使
ジグジット・レンツェンドー一等書記官
- 3月29日 プリヤート共和国視察団
エウゲーニー・エゴロフ（プリヤート国
民会議議長）
イリーナ・ウルバナーエワ（プリヤート共
和国社会科学研究所）
セルゲイ・ツィレンドルジーエフ（雑誌「バ
イカル」編集長）
バイル・ドゥッガーロフ（プリヤート共和国
作家同盟議長）
ヴィクトル・ハマルハーノフ（プリヤート
航空支配人）

VIII. 管理運営

1. 組織・職員（平成10年4月1日現在）

(1) 組織



(2) 職員名簿（カッコ内は前職）

- 館長 福田芳郎（但東町長）
- 副館長 金津匡伸（但東町教育委員会生涯学習課
係長）
- 主事 大岸勝也（但東町教育委員会生涯学習課
主事）
- 嘱託職員 森協博亮（但東町文化財調査委員兼務）
- 嘱託職員 渡辺律子
- 嘱託職員 加藤美智子

(3) 事務分掌

- 福田芳郎 博物館活動事業の推進
- 金津匡伸 博物館の管理運営、博物館の普及・広報
活動、資料の収集・保管、資料の展示（常
設・企画）、資料の調査研究、資料の説
明、他博物館との連繫活動

- 大岸勝也 博物館活動（講習会、教室、展示会等）、
各種団体・機関との連絡調整、公民館と
の連繫活動、博物館協力会、国際交流
- 森協博亮 民俗資料・民俗資料館の管理運営、文化
財調査委員会、文化財の調査・維持管理
- 渡辺律子 歳出歳入予算及び経理、博物館の庶務
- 加藤美智子 入館者の受付・案内、公文書の経理、館
内清掃に関すること

2. 予算の概要

【博物館事業費内訳】

(単位：千円)

区 分	内 訳	平成7年度	平成8年度	合 計
本工事費	造成、建築、展示、外構、その他	200,850	303,840	504,690
備品購入費	事務室、たんとうの森、玄関ホール、その他	0	19,048	19,048
調査設計監理費	測量、土質調査、設計監理	15,038	7,224	22,262
用地費及び補償費		90,496	0	90,496
事務費等		655	2,567	3,222
合 計		307,039	332,679	639,718

財源内訳	起債（過疎債）	275,400	310,000	585,400
	一般財源	31,639	22,679	54,318
合 計		307,039	332,679	639,718

【博物館運営費内訳】

予算は当初予算額で、給料、職員手当、共済費等は含まれていない。

〈平成8年度〉

(単位：千円)

	運営費	企画展運営費	企画展準備費	活動費	計	備 考
賃金	120		120		240	機械警備
報償費	500	650		250	1,400	
旅費	350				350	
需要費	13,927	759	81	430	15,197	
役務費	643				643	
委託料	268				268	
使用料及び賃借料	1,007	25			1,032	
備品購入費	198				198	
負担金補助及び交付金	6				6	
計	17,019	1,434	201	680	19,334	

〈平成9年度〉

(単位：千円)

	運営費	企画展運営費	企画展準備費	活動費	計	備 考
報償費		50		570	620	機械警備・くん蒸 展示資料の追加 県博物館協会
旅費	1,077				1,077	
需要費	13,002	380	2,732	580	16,694	
役務費	1,527				1,527	
委託料	1,862				1,862	
使用料及び賃借料	1,008	60			1,068	
備品購入費	500				500	
負担金補助及び交付金	11				11	
公課費	19				19	
計	19,006	490	2,732	1,150	23,378	

3. 博物館協力会

博物館協力会は当館が位置する資母地区の住民から「いつまでも美しい建物にしよう」という声上がり、加藤廣己氏と塩川剛三氏の呼びかけで、平成9年2月10日に発足した。発足から平成9年度までの活動内容は以下のとおり。

◎平成9年役員（任期：平成9年2月10日～12月31日）

会長 加藤廣己 常任幹事 塩川剛三 山口史郎
幹事 8名 役員 8名

◎平成10年役員（任期：平成10年1月1日～12月31日）

会長 塩川剛三 常任幹事 渡辺 毅 早水 宏
幹事 7名 役員 7名
顧問 5名

◎平成8・9年活動内容

- 平成9年2月10日 博物館協励会発足および役員会
役員17名
- 4月20日 博物館周辺環境の整備(除草作業)
15名
- 6月7日 博物館体験農園コスモス種蒔き
26名
- 7月6日 博物館隣接地の太田川清掃作業
48名
- 7月9日 花いっぱい運動打合せ
加藤会長、塩川常任幹事
- 8月3日 ベゴニア苗移植作業、博物館周辺
環境の整備 11名
- 10月10日 博物館前にて如布神楽を披露
如布地区住民
- 11月3日 開館一周年記念講演会
12名
- 11月18日 役員会
役員17名、議員2名、教育
委員2名、博物館職員6名
- 平成10年2月23日 役員会
役員18名、博物館職員2名
- 3月10日 特産物販売所に関する打合せ
23名

平成8年11月3日に開館してから1年5カ月が経過した。累計で54,541名の方に見学して頂いた。内訳は下記のとおりであるが、有料が39,476名、無料が15,065名である。但東町民の博物館利用率は7833名で全体の14%である。また、雪の多い但馬というイメージから、一般利用者の冬季における利用率が極端に低くなる傾向にある。

4. 入館者利用状況

【平成8年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
町民								1,507	464	361	407	646	3,385
一般								2,409	1,052	960	1,173	2,545	8,138
高大								26	28	19	20	159	252
小中								183	37	103	96	367	786
その他								3,000	1	19	63	159	3,242
計								7,125	1,581	1,462	1,759	3,876	15,803
1日平均								297	69	58	73	144	128

【平成9年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
町民	762	445	404	492	530	259	251	255	240	261	212	337	4,448
一般	4,251	3,262	3,100	1,898	2,882	2,085	2,232	2,736	1,172	833	1,153	1,666	27,270
高大	45	61	33	17	172	38	14	12	6	18	15	145	576
小中	436	418	109	149	544	213	147	102	32	66	39	199	2,454
その他	359	610	245	973	372	173	204	448	96	125	137	248	3,990
計	5,853	4,796	3,891	3,529	4,500	2,768	2,848	3,553	1,546	1,303	1,556	2,595	38,738
1日平均	234	178	150	136	167	106	110	137	67	54	65	96	126

5. 日誌抄（平成8年4月1日～平成10年3月31日）

【平成8年度】

- 4月1日 人事異動に伴い博物館対策に大岸勝也主事移動
- 5月6日 株式会社さんようと展示契約
在コロンビア日本大使館深川正明医務官視察
- 6月15日 八戸市立博物館より寄贈資料引き取り
- 19日 宮城県立東北歴史資料館より寄贈資料引き取り
- 7月1日 博物館整理室を町民センター第三研修室に移転（～10月30日）
- 8月12日 建築本体竣工検査
- 10月1日 展示マネキン搬入
- 2日 展示用ゲル組立作業
- 10月11日 展示模型搬入
- 14日 たんとうの森人工樹木搬入・設置作業
- 11月1日 前在モンゴル日本国特命全権大使蓮見義博ご夫妻来町
- 2日 博物館竣工式、完成祝賀会
- 3日 博物館開館、モンゴル交流の集い
- 1月2日 開館記念につき特別観覧
- 6日 日本の鬼の交流博物館村上館長以下3名視察
- 1月26日 文化財防火デーにつき出石郡消防署巡視
出石町教育委員会社会教育課小寺誠主査視察
- 27日 入館者1万人
- 28日 日高町役場視察
- 30日 養父郡町議会議長会18名視察
- 31日 福知山市社会福祉協議会23名視察
- 2月4日 但馬中学校理科部会11名視察
- 6日 兵庫県震災復興総合相談センター相談員2名視察
- 11日 中村福助ご一家4名来館
- 20日 山東町議会7名視察、京都府久美浜町佐濃小23名研修
- 24日 城崎・出石郡収入役会6名視察
日本・モンゴル国交樹立記念東京レセプション出席（奥田町長、金津副館長）
- 25日 大屋町社会教育課7名視察
- 3月6日 岡山県中央町議会8名視察
- 7日 兵庫現代劇場2名視察、全但バス株式会社営業部運輸課32名研修
- 9日 和田山町役場16名視察
- 12日 丹波県民局・丹波こころんクラブ14名視察
- 13日 大阪河内長野国際交流協会8名視察
- 14日 全国こども会連合会70名視察
- 16日 香住町公民館11名視察、広島県福山市11名

視察

- 18日 正面入り口脇に日本とモンゴルの国旗掲揚、全但バス株式会社観光課ガイド11名研修
- 27日 養父町議会16名視察、神奈川県山之内房子氏よりモンゴル民族資料寄贈
- 29日 美方町こころ豊かな地域づくり15名視察
- 30日 日高町役場11名視察

【平成9年度】

- 4月3日 久美浜町議会10名視察
- 4日 青森県八戸市博物館縄文学習館小林和彦氏視察
出石グランドホテル新人職員研修49名
- 6日 日村豊彦県会議員視察
- 4月14日 小野市立来住会館竹内館長以下2名視察
- 15～16日 モンゴルフェア開会式出席（大岸主事）
- 19日 京都府網野町教育委員会2名視察
- 20日 天田郡三和町教育委員会2名視察
- 21日 加悦町商工会3名視察、加悦町商工観光課山上正博課長視察
- 24日 亜細亜倶楽部藤原編集長視察
- 26日 入館者2万人記録、但馬県民局森野局長視察
富山県利賀村企画調整室野村順作参事視察
丹後海陸交通株式会社小谷正部長視察
- 29日 21世紀の地球を考える会10名視察
夜久野町教育委員会1名視察
- 5月3日 尼崎市教育委員会森隆氏視察
- 4日 関宮町教育委員会4名視察
- 5日 京都府峰山町教育委員会2名視察、兵庫県教育委員会文化財課村山氏視察
- 10日 豊岡市教育長、赤穂市教育長、相生市教育長、龍野町教育長視察
- 11日 竹野町教育委員会本庄四郎視察
- 12日 広島市楽々園公民館モンゴル訪問団20名視察研修
- 14日 兵庫県住宅建築課視察
- 15日 NHKテレビひるどき日本列島生放送「機織りの町にモンゴル」
- 20日 但馬派遣社会教育主事25名研修
- 22日 滋賀県立長浜文化芸術会館竹村誠学芸員、水口文化芸術会館井上博夫学芸員、安曇川文化芸術会館濱口潤二学芸員視察
- 29日 但馬社会教育委員・公民館運営審議会視察
- 6月1日 丹後観光キャンペーン推進協議会茶谷昌史副企画委員長視察
- 4日 兵庫県農政室長視察
- 5日 ハカス共和国音楽コンサート
河内長野市教育委員会中野栄二係長視察

7日	大阪大学山口修教授・兵庫県現代劇場普及課藤原課長コンサートの打合		ル組立体験学習
9日	加古川流域滝野歴史民俗資料館大久保栄造館長視察	15日	徳島県那賀川町教育委員会広田次長視察
	野田川町議会OB14名視察	19日	日本モンゴル文化協会仙台支部石田支部長来館、入館者3万5千人記録
	出石町教育委員会社会教育課小寺誠氏視察		プール学院大学国際文化学部リンダ・D. マッセルホワイト氏視察
	兵庫県立但馬文教府尾崎靖宏文化専門員視察	20日	神戸大学国際関係学部津田教授視察
	但馬婦人連合会総会10名視察	21日	但東町わいわい広場プレーリードッグ観察会
13日	久美浜町教育委員会(視覚障害者)20名視察	29日	滋賀県立水口芸術文化会館井上学芸員視察
	但東町議会文教福祉委員会視察	9月3日	参議院芦尾長司(前兵庫県副知事)議員視察
14日	舞鶴市和田中2名視察		宮城県立多賀城跡調査研究所藤沼邦彦所長視察
17日	法務省兵庫公安調査事務所国外担当長友紘一統括調査官以下3名視察	5日	兵庫県議会文教福祉常任委員会18名視察
22日	豊岡市社会教育課4名視察	10日	モンゴル人画家ウルタナサン氏但東町より滋賀県へ
24日	但馬県民局労政課1名視察	11日	兵庫県自然保護指導員尾崎弘明氏視察
26日	奈良県立美術館視察	12日	岐阜県上矢作町企画部12名視察
27日	香寺町区長会25名視察	18日	同朋大学社会学部老人福祉研究室伊藤真理子氏視察
29日	奈良県教職員11名視察、夜久野町23名視察		西宮市教育委員会青少年課坂東広昭係長視察
30日	出石ドライブイン5名社員研修、和田山町社会教育委員11名視察	21日	入館者4万人記録
7月1日	入館者3万人記録、但東町高橋小学校3学年PTA25名視察	23日	財団法人千里文化財団三原健志主幹視察
3日	村岡町ゆぶね学園53名視察、関宮町ボランティアグループ76名視察	25日	京都府宮津市民生委員16名視察、京都府網野町橋小学校37名視察
12日	香住町国際交流協会咲花氏来館		関宮町教育委員会片芝研作氏視察
14日	赤花化工株式会社研修生ムンフツェツェクさん帰国挨拶	30日	播磨県民局、但馬文教府53名視察、滋賀県立水口文化芸術会館松下良勝次長来館
16日	兵庫県内県民局長自主研修10名視察		兵庫県福祉部高年福祉課永多一樹氏視察
19日	博物館前庭にて「但東夏まつり」開催(約1500名)	10月6日	七人の小人石像設置(寄贈)
	歌手ソロンゴさんの野外コンサート(2週間に渡り町内にホームステイ)日本人馬頭琴奏者加藤氏の民族音楽紹介、法務省兵庫公安調査事務所国外担当1名視察	7日	京都府野田川町市場小学校28名視察
	日本モンゴル文化協会事務局長石河信昭氏来館		大阪にてモンゴル経済投資セミナー出席(金津副館長)
23日	日本モンゴル親善協会30周年記念レセプション出席(金津副館長)	10日	博物館前で如布神楽を披露
8月1日	モンゴル人画家ウラタナサン氏来町し創作活動開始	12日	鳥取県博物館協会47名視察
2日	関宮町大谷小2年15名視察	14日	日高町文化財審議委員4名視察
	香住町商工会2名視察、日高町日高東中学校4名視察	17日	八戸工業大学建築工学科高島成侑教授視察
5日	村岡町教育研修会28名視察	22日	施設の瑕疵検査
8日	外務省中国課菊池稔課長補佐来館、但馬子育てインストラクター研修会23名視察	24日	愛媛県内子町企画調整課岡田課長視察
10日	全国子供会連合会ジュニアリーダー36名ゲ	25日	関西テレビにて博物館紹介(国際交流)、香住町余部小学校5年生31名
		26日	木の殿堂16名視察、香住町国際交流協会咲花氏他3名視察
		31日	京都府加悦小学校6年生53名
		1日	写真家大塚知則氏来館(~4日)
		11月4日	京都府峰山地方振興局商工課堤光輝氏視察
		7日	村岡町観光協会田丸明人会長視察、全但小

中学校事務研修会

9日 国学院大学日本文化研究所相山林継教授視察、東京国立博物館名誉館員亀井正道氏視察、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所渡辺昇主査他4名視察
日中友好協会兵庫県連視察

14日 関西経済連合会13名視察、但馬教育委員会事務局研修会25名視察
但馬広域行政事務組合金子輝雄総務企画課長視察

18日 県民局県民運動推進担当副参事10名視察、博物館協力会総会
アジア図書館山本修治氏来観

20日 浜坂町連合PTA24名視察

25日 村岡町教育委員会15名視察

27日 山形県最上町議会7名視察、山形県最上町健康福祉課柴崎憲一課長視察
朝来町中央公民館12名視察、丹南町教育委員会・西紀町教育委員会32名視察

28日 村岡町議会13名視察、生野町議会17名視察、美方町議会12名視察
人間国宝細見華岳氏来館

29日 ゲル組立体験14名、兵庫県立和田山商業高等学校京極玄之教頭視察

30日 国立民族学博物館ルハグバスレン氏他6名視察、日本口琴協会直川礼緒会長他2名視察

12月3日 兵庫県主催「さわやか街づくり賞（建築部門）」で入賞

5日 北但子供会連絡協議会12名視察

6日 兵庫県土木部前田増夫部長視察

13日 加古川・但東子供会環境プログラム班視察

15日 国立民族学博物館小長谷有紀助教授、ルハグバスレン外来研究員へ表敬訪問

24日 駐日モンゴル大使館へ打合せ（奥田町長、金津副館長）

1月3日 午後のみ臨時開館

10日 太田稔氏作成の旭鷲山関の絹浴衣を館内にて展示
千里文化財団の三原氏来館し、モンゴルサミットについて打合せ

12日 町老人クラブ婦人陶芸教室

13日 兵庫県「第6回さわやか街づくり賞（建築物）」の授章式

18日 入館者5万人記録

20日 博物館前にて消火栓の実技訓練

26日 駐日モンゴル大使館にて日本モンゴル親善新春の夕べ出席（奥田町長、金津副館長）

29日 日本海沿岸地域連携整備計画調査視察（現地調査）
国土庁計画調整局総合交通課小野専門調査官視察
大阪産業大学経済学部今野修平教授視察
株式会社三菱総合研究所国土基礎部宮本氏視察

2月10日 関西照明技術普及会による現地審査

11日 アジア子供フェスティバル実行委員会多田氏視察

12日 兵庫県博物館協会総会23名視察研修

19日 全但出納職員視察研修15名

24日 全但バス8名視察

26日 滋賀県今津町今津中学校職員視察

3月1日 相生市教育委員会13名視察

2日 奥矢根近世墓遺跡の発掘調査（～17日）

3日 県指定文化財一宮神社ケヤキ群生林の一部試掘調査

5日 豊岡市田鶴野小学校2年生研修、和田山町糸井小学校研修

13日 国立民族学博物館名誉教授周達生氏来館

17日 井戸敏三兵庫県副知事視察

21日 鳥取県国際交流課高塚様視察23名
駐日モンゴル特命全権大使フレルバートル氏視察

24日 知事公館にて芦田副知事とフレルバートル大使会談（奥田町長、山本議長、金津副館長）

27日 豊岡市教育委員会社会教育委員7名視察

29日 一橋大学教授田中克彦氏視察

30日 八戸市博物館学芸員佐々木浩一氏視察

31日 アジアこどもプロジェクト池田宜弘氏視察

6. 来館者の声より（抜粋）

平成9年9月よりロビーにアンケート用紙を設置した。以下は来館者の声を抜粋したもので、博物館職員としては真摯に受け止め今後の運営に生かしたい。

【平成9年度】

- ◎ 9月27日 千葉県松戸市 N・N(女性)
国名は知っていたが、モンゴルに関する知識は殆どなかった。身近に感じるモンゴルになった。
- ◎ 9月27日 京都府山城町 T・N(男性)
2回目の見学ですが大変良かった。やまびこに宿泊して明日はテニスを楽しみます。
- ◎ 9月28日 徳島県鳴門市 S・A(女性)
モンゴルに関する知識はあまりなかったが、興味があって鳴門から来ました。とても好きな国ですので本当

に来て良かった。

- ◎ 9月28日 京都府久美浜町 K・M(女性)
草原に住むプレーリードッグがかわいかった。
- ◎ 9月30日 京都府大宮町 K・K(男性)
近くの町でこんな立派な博物館を作ったことに敬意を表します。地道な活動を末長く望みます。
- ◎ 10月18日 兵庫県宝塚市 T・W(男性)
国際化時代にふさわしい博物館となっており、感心しました。異文化理解のため、さらに今後の展示活動に期待しております。
- ◎ 10月26日 兵庫県村岡町 T・T(女性)
夢の国に来たみたいです。詳しい説明をして頂いてありがとうございました。
- ◎ 10月27日 奈良市 K・M(男性)
車で初めて来ましたが、道を間違ってしまった。案内板の充実をお願いしたい。図書コーナーの窓際は明るくて大変良い。
- ◎ 11月2日 兵庫県山崎町 T・M(男性)
このような博物館があることを知りませんでした。宮津方面への旅行の途中で立派な建物を見つけて見学しました。随分の資料、今後もお充実させて下さい。
- ◎ 11月6日 兵庫県和田山町 M・A(女性)
空間といい、落ち着きのある建物と光の良さがその世界に引き寄せられる気がした。モンゴルの世界を少しは自分なりに満喫できました。
- ◎ 11月7日 京都府丹波町 T・K(男性)
とても素晴らしい博物館でした。もっと広く一般に知られるようPRされると良いと思います。職員の方がモンゴル音楽について、とても親切に教えて頂きました。
- ◎ 12月7日 愛知県十四山村 M・N(女性)
但東町にモンゴルの博物館があるとは知りませんでした。
- ◎ 12月19日 神戸市須磨区 M・T(男性)
こんな奥地(失礼)に、とても立派な博物館で驚きです。職員のご努力に感服。
- ◎ 12月27日 北海道江別市 A・M(女性)
モンゴルが大好きで片道一日かけて来ました。口琴と馬頭琴が見られて結構でした。デール(民族衣装)の販売などがほしい。
- ◎ 1月10日 川崎市 S・Y(女性)
モンゴル博物館が当地にできた理由などを書いた資料があると有り難い。
- ◎ 2月9日 兵庫県八鹿町 K・I(男性)
旧友を連れて来ました。但馬の中でも他に紹介できる貴重な施設のひとつです。
- ◎ 2月28日 奈良県下北山村 H・N(男性)

大変よく整備されていた。町長はじめ行政や町民のパワーが感じられます。これからもどのように変化していくのか楽しみです。

- ◎ 3月20日 京都府夜久野町 S・B(男性)
但東町は夜久野との交流もあり、いろいろな点で勉強になりました。今後とも素晴らしい企画をお願いします。
- ◎ 3月26日 京都府福知山市 E・H(女性)
異文化に触れ大変勉強になり、とても興味を持ちました。実際にモンゴルに行ってみたくなりました。積立をしておきますので、企画されたら一報下さい。
- ◎ 3月26日 京都府近江八幡市 K・T(男性)
もっと宣伝に力を入れてほしい。道路案内も増やしてほしい。
- ◎ 3月29日 神戸市北区 Y・N(女性)
モンゴルの説明をしてくれたおじさんが良かった。
- ◎ 3月30日 埼玉県三郷市 R・K(男性)
国語でスーホの白い馬を勉強したので、おじいちゃんに連れられて来ました。本物の馬頭琴を見て驚きました。

7. 施設概要

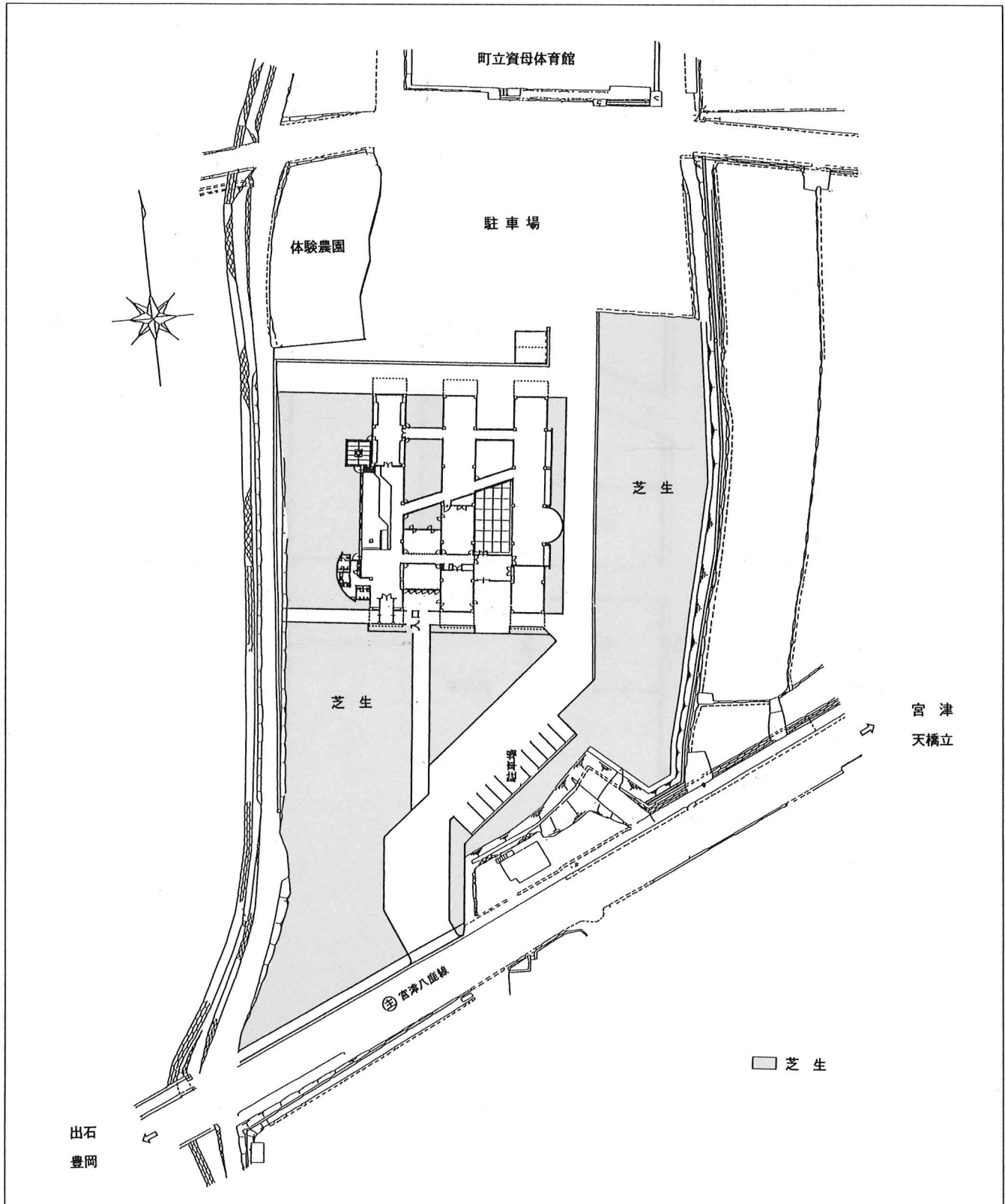
(1) 建築概要

位 置	兵庫県出石郡但東町中山711
基本設計	建物 井上良一建築設計事務所 展示 株式会社さんよう
実施設計	建物 井上良一建築設計事務所 展示 株式会社さんよう
工事施工	建物 川嶋・井田・マルテン特別共同企業体 展示 株式会社さんよう
工 期	建物 着工 平成7年12月14日 竣工 平成8年8月12日 展示 着工 平成8年5月7日 竣工 平成8年10月30日
敷地面積	8260.88㎡
建物面積	999.65㎡
構造概要	鉄筋コンクリート造フッ素樹脂塗装鋼板瓦 棒葺 立体トラス鉄骨(KTトラス)
各室面積	玄関・たんとうの森211.6㎡、多目的ホール56.5㎡、創作室48.2㎡、荷解室33.3㎡、事務室33.3㎡、応接室28.0㎡ 展示室「東アジアの歴史」75.7㎡ 展示室「モンゴル草原の暮らしと文化」206.8㎡ 展示室「チベット仏教」37.7㎡、企画展示

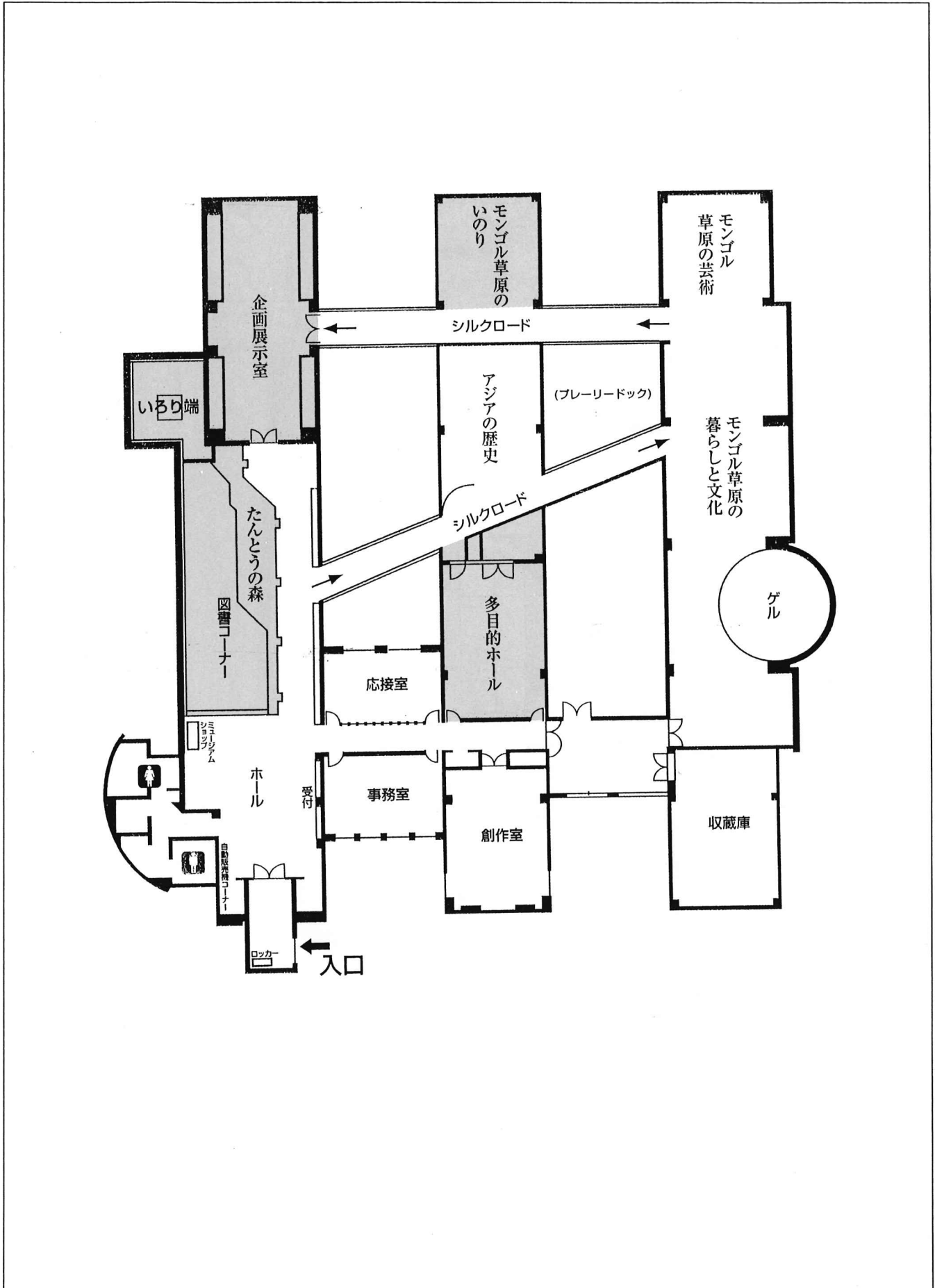
室74.4㎡
 シルクロード(回廊) 113.3㎡、シルクロー
 ド(回廊) 213.3㎡
 シルクロード(回廊) 312.6㎡、シルクロー
 ド(回廊) 412.6㎡
 建物規模 平屋建て 東西41.8m 南北42.5m
 地上高9.0m

仕上げ <外装> 復層吹付
 <内装> 床 モルタル下地タイルカーペッ
 ト貼
 壁 山本窯業化学テラックス、石
 膏ボード、化粧合板
 天井 杉小幅板、岩綿吸音板貼り

(2) 配置図



(3) 平面図



8. 利用案内

開館時間 9時30分から17時まで(入館は16時30分まで)

休館日 水曜日(祝日の場合は翌日休館)

年末年始(12月28日～1月4日)

観覧料 一般 500円(450円)

高校・大学生 300円(250円)

小学・中学生 200円(150円)

※ カッコ内は20名以上の団体の場合

※ 兵庫県内の小学・中学生はココロンカードの提示により無料となります。

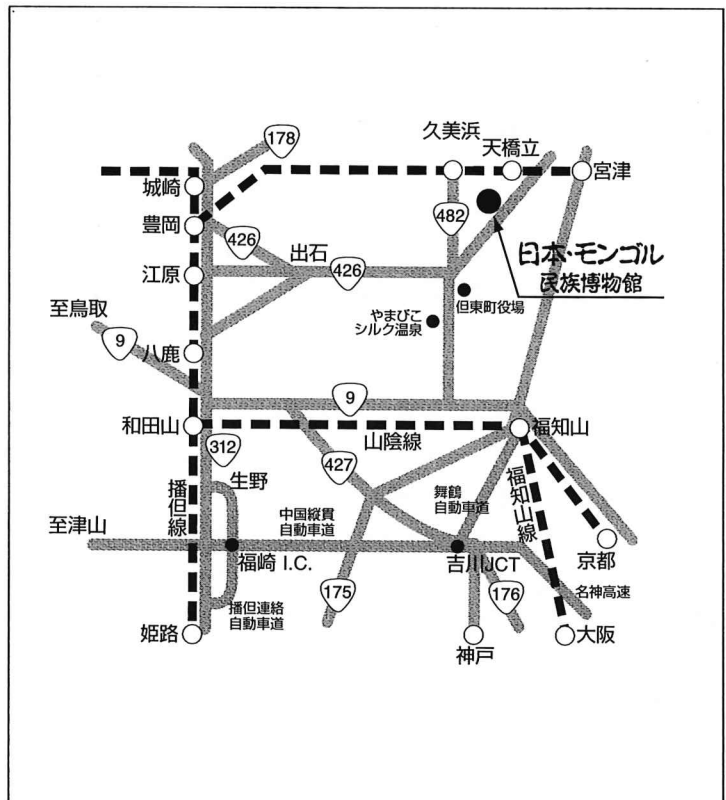
創作室 文化活動、学習活動等の催しに、ご利用できます。

駐車場 乗用車約70台、大型バス5台(無料、隣接した町立資母体育館の駐車場と兼用)

9. 交通案内

■ JR山陰線八鹿・江原・豊岡駅よりバス50分(博物館前バス停)

■ 大阪、神戸、京都より車で2時間半



あとがき

■ ゴビ砂漠を越えたモンゴルの民族資料は兵庫県の山あいの里「但東町」に落ち着くことになった。博物館の建設は但東町が内外に向けて「モンゴルの町」としてのイメージマーケティングに大いに役立ったと考えている。小さな町の大きな国際性をモットーに、世界に通じるローカル博物館作りを目指してきた。これからも日本とモンゴルの友好関係の進展に貧者の一灯を捧げられれば幸いである。また文化行政で大切なことは、一律的な事業を展開し、文化の質を高めていくことも必要であろうが、他とは異なった独特の個性ある文化行政を進めていくことも忘れてはならない。／人と人との出会いとは何だろうと考えるときがある。この仕事を通して但東町と福田館長と知り合うことができ、力を与えてくれたこの町で、もっと多くの人と出会い、ここでしかできないことを、山を越え海を越え発信していきたいと考えている。(金津匡伸)

■ 博物館開設準備から係わりながら二年を経過した。開館直後は、その日その日の業務をこなすだけで精一杯であった。最近になって慣れてきたせいか、心に若干の余裕が生まれてきた感じがする。昨年8月にモンゴル国を訪問し、遊牧民の生活を肌で感じてきた。これまで「モンゴル」や「博物館」には縁遠い生活でしたが、気が付けば国内外のモンゴルに関心を寄せる多くの友人ができた。／今夏、モンゴルから中学生二人と大学生が町にやって来る。モンゴルで多くの方にお世話になり、感激して帰国することができた。これからも人と人との新しい出会いを大切に、博物館で頑張っていきたい。(大岸勝也)

■ 《博物館雑感》近くて遠い彼方にあるという国、「モンゴル国」、私にとって未知に等しいこの国について、この年齢になって日々の勤めの中でかかわっていくとは思ってもかけないことでした。／当館がオープンしてから早くも一年半を終えようとしています。全くの素人が聞き学問や書物等から得たほんのチョッピリの知識で曲がりなりにも当初から館内の説明をしてきましたことは(現在でも)汗顔ものです。／おかげさまでまずまず順調な来館者を迎えることができ、福田館長をはじめ一同喜んでいきます。かくある一つには、金津副館長の情熱を傾けられ収集された日本・モンゴル関係の質・量共に貴重でかつ優れた内容の展示品によるものだ確信しています。／勤務中、閉館時間を前にして展示ケースのガラスを拭いて廻るとき、時々ケースの中から展示品のつぶやきが聞こえてくるよう

な気がします。それぞれの日用品、装飾品や馬具、また芸術品にしても、素材から製作者、所有していた人へのつながり、更にそれにかかわる多くの人々とその生活の様子などへと思いを馳せるとき次々と想像が膨らみ広がっていきます。また、片方からは彼らのいう「青空の国」、悠久の自然のなか雄大な大草原をバックに家畜たちのいななきのこだまが聞こえてくるようです。／運営についても、色々な面で心豊かな交流ができるような場を持つ、一味違う日本・モンゴル民族博物館を目指していきたいものです。まだお越しでない方は勿論ですし、二度三度とご来館いただき「モンゴル」と語り合ってください。お待ちしております。

(森脇博亮)

■ 《ひとときの思い》博物館勤務。それは友人たちの驚きの声と、解熱剤を携えてのスタートだった。初めからこの不調でやっていけるのかと不安だった。博物館がどうだとか、仕事がどうだとかいう以前の問題でつまづいていた私だった。が、あれから一年余、周囲の皆のお陰で今日までこれたと痛感している。／いつの間にか、小学校の子供たちの案内は、主に私が担当するようになり、何人もの子供たちと一時を過ごしている。「スーホ」の住んでいたゲルや、「スーホ」の弾いた馬頭琴を見にやってくる子供たちの心の中には、「スーホ」が現実の世界に生きている。そんな子供たちが、また来たいと思ってくれるような時をこれからも提供できたらと思っている。「お姉さん」と呼ばれることに心を動かしながら。(渡辺律子)

■ 博物館も開館してから早いもので一年半が過ぎようとしています。私自身が博物館に関する知識や技術もなく、モンゴルについても多くの情報を持ち合わせていないままにモンゴル博物館に勤め始め、現在に至っております。この一年半で自分なりに見たり聞いたりしながら、少しずつ勉強してきました。しかし、知れば知るほどに、学べば学ぶほどに大草原の国への興味が尽きず、奥の深い国だと実感しています。偶然に立ち寄られた来館者のなかには「チンギス・ハーンの国モンゴルへ行って来たようだ」と、近くて近い国になった印象を話される方も大勢おられます。／また、若い国のモンゴルには未知数の未来と希望があるように思います。モンゴルを支援されている団体や個人の取り組みをみてもうかがい知ることができます。私自身としても多くのことを学び、博物館職員として今後も運営に携わっていきたく思います。(加藤美智子)

日本・モンゴル民族博物館年報第1号

Japan Mongolia Folk Museum

平成10年4月1日発行

〒668-0345 兵庫県出石郡但東町中山711

TEL (0796) 56-1000

FAX (0796) 56-1022

711 Nakayama, Tanto-Cho, Izushi-Gun, Hyogo 668-0345 JAPAN

発行／日本・モンゴル民族博物館

印刷／嶋屋印刷